

文献史料1（庄右衛門町）

史料1―1 宝暦期（一七五一～一七六三）

庄右衛門（町） 此所庄右衛門間歩ノ山師大坂庄右

衛門開発八反一畝十六歩ナリ。因
テ名トス。

『佐渡相川志』

史料1―2 慶長九^甲辰年（一六〇四）

一 相川銀山初りてより他國もの夥數來り住居す
町々の名多くは住居の者の名を取て唱ふ庄右衛門町
は山仕大坂庄右衛門住し（後略）

『佐渡年代記』上

史料1―3 慶長期（一五九六～一六一五）

●相川府中開発之事

（中略）

○銀山立始り上相川間山開発ニ候哉其外ハ則住居之
者ノ名ヲ以町ノ名トス庄右衛門町ハ山師大坂庄右衛
門住居惣徳町ハ田中小左衛門後禪門名惣徳ト云諏訪
町信州諏訪ノ者來り此所ニ住居是ヲ世ニ諏訪殿ト云

（中略）

○元禄七戊辰年四月五日ヨリ七月廿八日迄相川町屋敷
御検地御水帳ニ屋敷石盛末々随銀山盛衰二町々上中

下ノ品可相究由有之二付其後御内積り有之候ハ四段
ノ位付左ニ記 一、高四百貳拾五石六斗六升八合
此段歩四拾三町四段五畝貳拾壹歩 内四拾壹町五段
九畝九歩 町屋敷・壹町八段六畝拾貳歩 畑方

（中略）

一ノ位 下戸・下戸炭屋町・四町目・三丁目・貳町
目・壹町目・羽田町・大間町・下京町・中京町・上
京町・新五郎町・大工町・諏訪町・庄右衛門町・清
右衛門町・嘉左衛門町 合拾七町

（後略）

『佐渡国略記』上

史料1―4 慶長九^甲辰年（一六〇四）

相川府中開発之事

（中略）

偕テ町の名ハ大方山師が居所より別れたれば山仕の
名を用る事多し銀山間歩の名も又右の如シ顯々左ニ
記ス

（中略）

山師大坂庄右衛門住所

庄 右 衛 門 町

（後略）

『佐渡風土記』

史料1―5 寛永二^乙丑年（一六二五）

一 九月廿七日下午寺町圓徳寺より出火して近邊寺院
不殘焼失南澤より大工町庄右衛門町邊類焼桐ノ木澤

源昌寺にて焼け止る

『佐渡年代記』上

史料1―6 寛永二^乙丑年賦（一六二五）

●丑九月廿七日、下寺町円徳寺ヨリ出火、大工町庄
右衛門町桐木沢源昌寺ニ而焼泊ル、同興禪寺本堂北
側ノ軒下迄やけ候跡今ニ有之、尤寺町法界寺残候由

『佐渡国略記』上

史料1―7 寛永十四^丁丑年（一六三七）

十四^丁 丑

一 十一月二日夜、円徳寺大火事、但付火之由、大
工町・勘助町二丁、諏訪町・庄右衛門町・南沢類
焼也

『佐渡名勝志』

史料1―8 慶安二^乙丑年（一六四九）

一 七月七日大雨にて峯通りの土砂流れ出銀山内満
水に及び間歩々々へ水落込川際の家々不殘押流し屋
敷地面も土砂にて壹丈貳尺程埋り宗徳町嘉左衛門町
清右衛門町庄右衛門町北澤町坂下町濁川町の家々残
りなく流失せしめ右澤間歩にも水落込家々流れ六拾
枚口番所外番屋町本町鍛冶澤桐ノ木澤家々過半損し
買石共家々の鏈も流れ相川中川通りの橋は不殘流れ
須灰谷御米藏の内一ヶ所水損にて米百俵餘濡米にな
り在々も水損にて田畑荒所多く百姓家流れ人馬も損
るに付留守居役より七月十日附の注進狀江戸表へ差

出す

『佐渡年代記』上

史料 1—9 慶安二_{己丑}年（一六四九）

一 間山御番所之下宗徳町嘉左衛門町清右衛門町庄右衛門町より北澤町坂下町濁川町海際迄之家皆々流レ申候残り之家も柄山押掛りひしけ申候流レ跡之屋敷も皆々川並と罷成申候

『佐渡風土記』

史料 1—10 延宝五_{丁巳}年（一六七七）

一 冥加銀差出之事、（中略）、メ二百六十匁庄右衛門町三右衛門、右御直山割間歩御取立ニ付、樋引賃錢上ケ申度願出収ル

（後略）

『佐渡名勝志』

史料 1—11 天和元_{辛酉}年（一六八一）

（前略）

一 相川町數八拾壹町 但上組は庄右衛門町より上相川迄中組は味噌屋町より南澤次助町諏訪町迄下組は籠坂より馬町柴町迄

（後略）

『佐渡年代記』上

『佐渡国略記』にも同一の記事あり、省略

史料 1—12 正徳三_{癸巳}年（一七一三）

一 相川庄右衛門町川上伊左衛門といふものゝ土藏を買上ケ陣屋内へ引移す

『佐渡年代記』上

史料 1—13 正徳三_{癸巳}年（一七一三）

●同七月八日、庄右衛門町川上伊左衛門土藏ヲ御買上ケ、御陣屋ニ御建、御普請所役松浦与五右衛門、丸田弥次兵衛・仁木彦衛門、定役水田与左衛門、棟梁吉田市郎兵衛手代黒田忠兵衛・板野利平次

『佐渡国略記』上

史料 1—14 享保八_{癸卯}年（一七二三）

●同（四月）廿六日夜、庄右衛門町嘉左衛門二代伊右衛門年貳拾三、諏訪町忠右衛門女房はつ年三十一、上寺町法久寺山ニ而心中致相果申候

『佐渡国略記』上

史料 1—15 享保十_{乙巳}年（一七二五）

一 上相川番所役野上孫右衛門事青盤間歩穿子請直右衛門と云町人を討捨しにより孫右衛門并引合町人共吟味之上山岡傳五郎松平兵藏より伺し處孫右衛門御構無之其儘可爲相勤旨御差圖あり

此發りは孫右衛門役家普請致すに付隣町の家へ借宅する處三月十四日隣家覺兵衛と云もの方にて庄右衛門町九兵衛上相川町伊兵衛と云

町人碁を圍みしを孫右衛門詠め居し所へ直右衛門立寄圍碁を崩すによつて町人共口論に及

ひしを孫右衛門喫ひて崩れし碁を覺へたるにより作り直すへしと云を聞て直右衛門種々孫右衛門を惡口に及ひ其上持來たる干着を以孫右衛門か頭を打し故拾置難く我が宅へ來るへしと云しを直右衛門答て爾の宅へ參るへきものにあらすと散々罵りし故即座に討捨し由月番役へ届けしにより孫右衛門を始め其場に有合ひし町人共を詮議爲す處何れも直右衛門か平常不屈のよしを云然れとも孫右衛門御奉公を勤る役人たる上は町家へ立入筋にはあらねとも相川番と云は輕きもの故古來より町人共へも交る由水野和泉守殿へ書付を以相伺前文の通り六月御差圖有之

『佐渡年代記』上

史料 1—16 享保十一_{丙午}年（一七二六）

●同（七月）十二日夜、滝十郎右衛門於庄右衛門町夜番之者致慮外候由、并名主安兵衛中使九兵衛繩を掛候儀申分ケ難立、翌日遠慮被仰付、八月十九日右御免之節月番役江対シ及多言、又々閉門、同廿一日二御免

『佐渡国略記』上

史料 1—17 享保十五_{庚戌}年（一七三〇）

●同（十一月）九日、鏈粉成所二而五荷耆御問吹之

損銀七百目、銀山かなこ共二償被仰付所、かなこ仲間八十四人翌十日広間江願出候所、相川町助右衛門・間山六兵衛・庄右衛門町市左衛門・安兵衛・甚兵衛・柴町庄八・濁川左次兵衛・石扣町作兵衛・三町目伊七郎、合九人入牢、残七拾五人ハ縄付ニて町役人江御預ケ、翌日赦免被成、同廿三日右九人出牢

『佐渡国略記』上

史料 1—18

享保十七^壬年（一七三二）

一、九月廿二日、相川質屋の内、上相川宗兵衛、庄右衛門町治右衛門、大工町権八、四十物町四兵衛、石扣町勘兵衛、二丁目治兵衛六人、町方役所へ被召出、町々質屋に取置く脇差の類、遂吟味書立可差上旨被仰付。

一、十月八日、庄右衛門町治兵衛、町方役所へ被召出、相川中質屋掛被仰付。十一月廿二日右四人の者共、居宅一軒分の町役御免。

『撮要佐渡年代記』

史料 1—19

享保十七^壬年（一七三二）

●同（九月）廿二日、相川質屋之内上相川惣兵衛・庄右衛門町治左衛門・大工町権八・四十物町四兵衛・石扣町勘兵衛・式町目治兵衛、合六人者当正月廿七日と町々質屋ニ而質物ニ取候脇指類書付可差出由被仰付

『佐渡国略記』上

史料 1—20

享保十九^甲年（一七三四）

●同（二月）十二日、初午年賀、山方役山西八左衛門、普請所定役高野忠左衛門、御目付役山田半右衛門・保科喜右衛門、地方役柴田惣左衛門、銀山敷廻り役細井八兵衛、御奉行源左衛門様用人奥佐右助、下寺町福泉寺、庄右衛門町吉兵衛、柴町善右衛門、坂下町名主久兵衛、三町目茂左衛門、下戸町六左衛門、馬町名主治郎右衛門

『佐渡国略記』上

史料 1—21

享保二十一^丙年（元文元年）（一七三六）

●辰十二月朔日夜、庄右衛門町次左衛門弟重四郎を、羽田町五郎太夫方へ名跡二指越

『佐渡国略記』上

史料 1—22

元文三^戊年（一七三八）

●同日（五月二十五日）、当国宿根本船老艘敦賀方出船沖合ニ而荒二合、同廿九日夜深浦江着、乗人京町治左衛門手代佐右衛門、濁川庄右衛門二代半次郎、坂下町久兵衛二代半四郎、羽田町紺屋、其外在辺之者各無別条、六月二日相川へ帰、荷物者少々打残荷物殊之外ぬれ次左衛門・庄右衛門掲金子百両余ツ、損、薬種壺箇羽田町川部市郎右衛門差笠壺箇、線香壺箇主羽田町治右衛門、荷五箇庄右衛門町治左衛門各損分

『佐渡国略記』上

史料 1—23

寛保三^癸年（一七四三）

●同（六月）廿五日、庄右衛門町佐藤喜左衛門、小判師ニ申付候由後藤庄三郎方へ申来、是者間山佐藤治右衛門替り、治右衛門親類ニ付嘉左衛門小判師ニ成

『佐渡国略記』上

史料 1—24

延享元^甲年（一七四四）

相川町中町積之事並家数人員之事

元文二巳年改書 六十間一町（一七三七）

（中略）

○一 庄右衛門町 長二町二間 道幅 九尺
一 建家 四十軒外五軒明地

此役目四十九軒 二百四十一人（マ）
男九十九人 男子九人 女九十九人 女子十四人

（後略）

『佐渡名勝志』

史料 1—25

延享元^甲年（一七四四）

相府町間法 末紙二絵図ヲ出セリ、可参考ス

（前略）

吉兵衛前橋ヨリ惣助向角迄

○一 八十六間内豎町二十間 庄右衛門町分

都合 十二町四十間四尺

（後略）

『佐渡名勝志』

史料 1—26 延享元^甲年（一七四四）

御修覆之橋並大溝小板橋之事

（前略）

一 諏訪町庄右衛門町境ノ大溝

小橋 幅四尺長八尺

（後略）

『佐渡名勝志』

史料 1—27 延享元^甲年（一七四四）

●同日（五月二十三日）、庄右衛門町伊左衛門・三町目与三兵衛入牢、是ハ青盤間歩稼方之儀ニ付

『佐渡国略記』上

史料 1—28 寛延二^己年（一七四九）

●同日（四月十八日）、庄右衛門町名主与三右衛門二代相果

『佐渡国略記』上

史料 1—29 寛延二^己年（一七四九）

●同（巳年）、庄右衛門町佐藤嘉左衛門、老町目二家作事、是ハ酒井善兵衛殿方買取

『佐渡国略記』上

史料 1—30 寛延三^庚年（一七五〇）

●同（五月十四日）、庄右衛門町名主与三右衛門女房相果、是ハ船手役加藤孫左衛門かこ甚兵衛娘

『佐渡国略記』上

史料 1—31 宝暦元^辛年（一七五一）

一 庄右衛門町大工町柴町下戸町羽田町五ヶ所より毎月錢相場書出すへき旨を觸る

『佐渡年代記』上

史料 1—32 寛延四^辛年（宝暦元年）（一七五一）

●未六月朔日、庄右衛門町・大工町・柴町・羽田町・下戸町五ヶ所、毎月御沙汰日ニ町々錢相場之差出可仕旨、右之町々江被仰渡

『佐渡国略記』上

史料 1—33 寛延四^辛年（宝暦元年）（一七五一）

●同（二月）廿一日、庄右衛門町清三郎養子兼助、年十八ニ罷成、今昼七時売掛取ニ罷出、廿四日迄歸り不申候間、清三郎町方御役所江願、町々江御觸有之候処、同日鹿伏村磯辺之岩之間ニ居候由、所之者召つれ清三郎方へ来り候

『佐渡国略記』上

史料 1—34 宝暦期（一七五一〜一七六三）

金 児

昔ハ金銀山ヲ稼ク者間山衆ト言。其後かなこと改中頃世ノ知ル処関東渡部弥右衛門、間ノ山ニ梶川弥二兵衛、庄右衛門町ニ今井善兵衛、大工町ニ安田仁兵衛アリ。其外稼ギ処ノ変ニ就テ家名モ絶々ニナリ当

時ハ猶又増減アレバ委ク記シ難シ。

『佐渡相川志』

史料 1—35 宝暦期（一七五一〜一七六三）

六、画

（前略）

庄右衛門町佐藤小兵衛男同小兵衛ト言フ。寛保元^辛年京師ニ登リ法眼鶴沢探鯨ニ入門シ師トシテ仕フ。延享元^甲年秋帰国シテ図照守秀ト言フ。

（後略）

『佐渡相川志』

史料 1—36 宝暦期（一七五一〜一七六三）

五十、桶 屋

善兵衛 庄右衛門町住

作兵衛 庄右衛門町住

（後略）

『佐渡相川志』

史料 1—37 宝暦期（一七五一〜一七六三）

五十二、湯 屋

八兵衛 庄右衛門町

六兵衛 庄右衛門町

（中略）

以上二十三軒折々増減アリ

『佐渡相川志』

史料 1—38 宝暦九^己年（一七五九）

●拔筋金御吟味一件

近年相川町人之内、於内々買石共方筋金を買請、他国江致持参商ひ候儀達御聞、今般御吟味二付白状いたし、巳二月廿三日御仕置

獄門拾四人

(中略)

一、卯八月晦日入牢

庄右衛門町 文右衛門

(中略)

所払八人

一、庄右衛門町文右衛門悴

伊三郎

(中略)

合拾耆人親共入牢二付所預ケ、二月廿三日被召出

御赦免

拾八人死罪二付牢屋江御立合

広間役町方掛り 須田両右衛門

御奉行御給人

御目付役 齊藤宇右衛門

三人引廻二付

御奉行御給人

御役目付 熊木茂左衛門

『佐渡国略記』下

史料 1—39

明和三年^{丙戌} (一七六六)

●戌二月九日、鳥越間歩元かなこ庄右衛門町今井吉兵衛悴、大工町善兵衛方二而死去、年七十

『佐渡国略記』下

史料 1—40

明和五年^{戊子} (一七六八)

●同日(三月二十六日)、耆町目広源寺観音堂棟上

ケ、番匠庄右衛門町庄三郎、是者当二月朔日観音堂崩取、西側ヲ広ケ鐘楼ニ致、元堂八十六一年以前宝永五子年建

『佐渡国略記』下

史料 1—41

明和七年^{庚寅} (一七七〇)

●寅五月廿四日、強訴御停止之御高札、庄(右)衛門町・羽田町へ御立、其外在々宿場へも御立被成候

『佐渡国略記』下

史料 1—42

明和八年^{辛卯} (一七七一)

●同(正月)八日、庄右衛門町吉十郎貸屋雪ニ而痛

『佐渡国略記』下

史料 1—43

安永二年^{癸巳} (一七七三)

●同閏三月廿七日、外吹買石四十物町六兵衛・中尾間歩大工庄右衛門町権兵衛・大間町竹助、各入牢、同四月廿二日六兵衛所払、残兩人ハ非人小や被仰付、是ハ右兩人敷内方鏈を盗出し六兵衛ニ売払之由相知レ如斯

『佐渡国略記』下

史料 1—44

安永四年^{乙未} (一七七五)

●未七月四日、庄右衛門町元名主与三右衛門死去、年四十二

『佐渡国略記』下

史料 1—45

天明五年^{乙丑} (一七八五)

●(二月)廿一日、庄右衛門町与三右衛門角、上相川茶屋坂上ノ口之所、石垣よこ式間三尺程、高八尺程損所有之ニ付、町役人方書付を以相届候ニ付、御普請場所ニ付御目付役柿浪市之丞・御ふしん所下山左太夫・人足頭久右衛門見分積り立ニ付、立会小頭萩野喜左衛門・我等罷越ス

『佐渡国略記』下

史料 1—46

寛政二年^{戊戌} (一七九〇)

●端米代割返ニ付、町々方割合帳面差出候ニ付、与助様へ差上候処、於町会所、小頭衆立合相渡候節、小前之もの家内人数之内耆人ツツ呼出し相渡候而可然由被仰付候、十七日与廿一日迄日数五日ニ割合、下組三日、上組二日ニ相渡、小前請取印形取、割合左之通

(中略)

式百八拾七人 耆人拾三文六分

四貫六拾四文

庄右衛門町

(中略)

ノ三拾四口

『佐渡国略記』下

史料 1—47

寛政四年^{壬子} (一七九二)

●正月廿一日夜、庄右衛門町弥三八と申もの方へ、去年八月比方逃去候江戸水替狼吉五郎忍入候処、弥

三八并母兩人二而捕へ、則左門町水替頭定吉江相渡候由、廿二日庄右衛門町役人相届、尤山元二而吟味被成候処、当月十三日左門町権兵衛かしやとくと申もの方二居候由申之、盗取候品ものもとく方二有之段左門町役人届ル、依之狼吉五郎入牢被仰付、御吟味之上盗取候品々吉五郎申口ヲ以町々之もの御尋被遊候処、於所々盗取品々向々町人共江御渡被成、吉五郎者二月十一日非人手下江被遣、左門町とく者山越被仰付、家主・町役人、其外右一件二拘り候もの共御叱二而相済

『佐渡国略記』下

史料 1—48

寛政六^{甲寅}年（一七九四）

●小早御船式艘御造替二付、前々之通普請所并炭座方小屋掛・材木持運び人足、其外作事中人足町々方入立可申由、去十二月方被仰付候処、尚又与助様被仰付候二付、先年之通り下戸町役人二申付、両長屋江差遣、并庄右衛門町・嘉左衛門町・諏訪町、右三町名主共世話番二付人足手配申付、是又御手伝のため長屋江遣、人足元触者一度百人ツツ触出置、入用度毎御船手役方下戸町役人江被仰付候節、下戸町役人方向々江申遣ス、御懸り広間役宇都野与助・地方役水田与一兵衛、正月八日方人足入立、二月廿九日御船皆出来、三月七日御乗初、長屋下方羽田浜江廻ル、御船御普請二付前後人足惣人数四百式拾三人

『佐渡国略記』下

（重複のため諏訪町の項には当記事不掲載）

史料 1—49

寛政七^{乙卯}年（一七九五）

●（五月）六日、嘉左衛門町かなこ弥三兵衛欠落致候二付、尋之上捕出、本途買石疋丁目長十郎兩人入牢、是者青盤間歩箱立間違筋有之、上京町善兵衛所預ケ、御吟味之上同十一日弥三兵衛ハ当国弘、稼道具ハ欠所、長十郎相川弘、稼道具欠所、本途買石庄右衛門町庄次郎御叱、本と上京町已之助無構、中京町善右衛門銀山セリは構、山ノ内義兵衛銀山構、味方与太夫・村上善次郎・帳付元右衛門・油番仙蔵・山留頭喜市郎・弥兵衛・山留安平・山ノ内安五郎・権七、八人戸、六月朔日御免、味方・村上六月十一日御免、山方役井上甚五郎・益田忠助、青はん番所役藤木弥三次・渡金五左衛門・助大久保弁右衛門・鈴木立次・立合御目付役堀内台助・金銀改役山田兵太夫八人押込、堀内・山田兩人ハ五月廿日御免、外ハ六月朔日御免、弥三兵衛小木迄送り町同心吉田林右衛門・藤井金之丞

『佐渡国略記』下

史料 1—50

寛政八^{丙辰}年（一七九六）

●（七月）十二日、大工町七兵衛追込御免、十三日長坂安之助・大工町石松・庄右衛門町長七郎抱之者弥七、三人共追込御免

『佐渡国略記』下

史料 1—51

寛政八^{丙辰}年（一七九六）

●青盤敷役人八人不埒之筋有之取放シナル、甚五元敷役人之内八人右替り帰役ス、嘉左衛門町弥次兵衛・喜市郎・太右衛門・庄右衛門町与十郎・大工町久兵衛・六右衛門町寅右衛門、外式人取放、上相川伊太郎・庄右衛門町徳十郎・五郎左衛門町幸右衛門・米屋町喜右衛門・四十物町三十郎・上京町三左衛門・中京町喜久右衛門・上相川茂左衛門、八人帰役

『佐渡国略記』下

史料 1—52

寛政九^{丁巳}年（一七九七）

●同日（六月十三日）方、於町会所、時疫之薬町々相煩ひ候ものへ被下候、掛り医師弥十郎（町）林松椿・大工町美濃部叔平被仰付候、其外相川町々井戸江疫除之薬ヲ下ケ、下々之もの江被下候呉菜黄五包御渡被成候、上組ハ庄右衛門（町）長十郎井戸、会津町中小路井戸、下組ハ羽田町伊左衛門井戸、馬町与三兵衛井戸、紙屋町大井戸

『佐渡国略記』下

史料 1—53

寛政十^{戊午}年（一七九八）

●（三月）晦日、山ノ神能之節、庄右衛門町長十郎抱大工万之助・亀次郎兩人ニテ同所大工長之助ヲ打擲いたし、万之助ハ入牢、亀次郎ハ所預ケ、御礼之上亀次郎ハ無構、万之助ハ御咎御免ニテ、療治代白銀老校長之助へ可指遣旨被仰付候

『佐渡国略記』下

史料 1—54 寛政十^{戊午}年（一七九八）

●三月廿八日、炭座御役所下世話煎間山弥次右衛門・羽田町清右衛門、兩人被召放、右代りとして四月三日元山留職人弥十郎町初右衛門・庄右衛門町市右衛門被仰付候

『佐渡国略記』下

史料 1—55 寛政十^{戊午}年（一七九八）

●（十一月）廿四日、羽田町久兵衛・上京町巳之助・大工町善藏・諏訪町庄八・庄右衛門町庄次郎、本途買石被召放、家屋敷御取上ケ、御目付役山西与三兵衛・下山左太夫・小頭中川・横田、仲間方甲賀・岩佐罷出ル

『佐渡国略記』下

史料 1—56 寛政十一^{己未}年（一七九九）

●御陣屋焼失一件

一、未五月七日夜八ツ時頃、御組頭南条助七郎様御役宅方出火、夫方御陣屋御囲ひ内関和太夫・関根甚三郎御役宅・御役所不残、御武具御土蔵・地方御土蔵・奥御土蔵・辰巳口御役所・金銀吹分所・御穿鑿勝場・出張御役所・稻荷神社・炭納屋・鍾納屋等迄焼失

（中略）

一、十四日、御陣屋類焼之節、焼場二而格別骨折相

働候者在之候ハハ、名前可書出旨丹右衛門様被仰聞候二付、取調、左之通り書上ル

羽田町中使佐左衛門 式丁目中使市郎右衛門
中京町名主清次郎 下京町中使常右衛門
下戸町中使新兵衛 三丁目名主吉左衛門
四丁目名主武右衛門 四十物町中使辰右衛門
米屋町中使利兵衛 庄右衛門町善兵衛
新五郎町喜三郎 式丁目元庵下男喜之助

（後略）

『佐渡国略記』下

史料 1—57 文化二^{乙丑}年（一八〇五）

●羽田・庄右衛門町、両所御高札御書替

庄右衛門町之分

○一、博奕賭之諸勝負 一、御伝馬并駄賃荷物
○一、従前之浦々高札相立 ○一、筋金之儀座之外二おゐて、一、火を付る者をしらは 一、如前々筋金上銀他国へ抜申間敷
○一、米并雜穀金銀其外 一、何事二よらす
一、諸国村々大小之百姓、〆九枚

（後略）

『佐渡国略記』下

史料 1—58 文化二^{乙丑}年（一八〇五）

●（七月）廿日、庄右衛門町喜市郎貸屋大工町たま智鳥越間歩ほり子吉之助二十九歳、右之もの屋敷裏梅木二昨夜首縊相果居候旨、大工町役人届書差出二

付、為検使御給人丸山助右衛門・公事方役今井忠兵衛・御目付役安田良助・同心渡部平右衛門・野原半太夫罷越ス

『佐渡国略記』下

史料 1—59 文化二^{乙丑}年（一八〇五）

●同（八月）七日、庄右衛門町与三右衛門甥鍋四郎、先達而出奔いたし、六度目三十日尋被仰付罷在候処、当日与三右衛門并町役人共被召出、鍋四郎ハ帳外被仰付、三人ハ急度御叱有之

『佐渡国略記』下

史料 1—60 文化三^{丙寅}年（一八〇六）

●正月廿一日夜、材木町友吉・庄右衛門町福助、兩人とも酒情之上二而、市町次郎右衛門娘へんと申者を打擲いたし候処、山内住居江戸水替惣八其場二居合候得共、取押へも不致、依之三人共手鎖、福助・友吉ハへん療治代として銀壹枚可差遣旨、於御裁許所御奉行被仰渡候

『佐渡国略記』下

史料 1—61 文化三^{丙寅}年（一八〇六）

●（十月）十八日、米俵成商人式町目もく・大工町喜十郎・新兵衛・友白町つや・諏訪町立右衛門・庄右衛門町万吉・南沢庄左衛門・上京町与右衛門・米屋町利右衛門・柴町徳兵衛・濁川町磯右衛門・九右衛門・小六町五兵衛・石扣町吉右衛門・四町目源七・

炭屋町彦兵衛・幸次郎・安兵衛・紙屋町喜七、
十九人、右之者共俵形米高利ヲ貪候段不埒二付、町
預被仰付候

『佐渡国略記』下

史料 1—62

文化三_{丙寅}年（一八〇六）

●（十二月）廿六日、七月十八日方御吟味中御咎被
仰付罷在候米買俵成屋共被御召出、左之通被仰渡候
紙屋町権三郎・同所金之助・炭屋町熊次郎・同所
元松、右四人手鎖御差免所払、炭屋町文次郎・式
町目佐五左衛門、右兩人ハ過料式拾貫文宛、石扣
町吉右衛門・小六町五兵衛・濁川町九右衛門・磯
右衛門・紙屋町喜七・権三郎悻悻三郎・炭屋町彦
兵衛・幸次郎・安兵衛・柴町徳兵衛・米屋町理右
衛門・友白町つや・上京町与右衛門・南沢庄左衛
門・大工町喜十郎・新兵衛・四町目源七・庄右衛
門町万吉・式町目小兵衛後家もく、右十九人過料
拾五貫文宛、諏訪町立右衛門過料三貫文、式町目
もく下代佐七手鎖、正月十六日御免

『佐渡国略記』下

史料 1—63

文化五_{戊辰}年（一八〇八）

●同（五月）廿五日、庄右衛門町初五郎事六助・諏
訪町留次郎事留吉・元江戸水替山内住居定七・江戸
水替新五郎町住居幸作・同断大工町住居藤八、右五
人風聞不宜、御召捕入牢被仰付、家内之者共ハ町預
ケニ成ル

『佐渡国略記』下
（重複のため諏訪町の項には当記事不掲載）

史料 1—64

文化六_{己未}年（一八〇九）

●同（十月）十六日、中寺町瑞仙寺押込ミ一件二抱
り候もの共御仕置、江戸水替山内住居幸次死罪、諏
訪町留吉・庄右衛門町六助兩人者遠嶋、新五郎町幸
作・大工町藤八兩人ハ重敲ニ而無構、新五郎町名主
次郎右衛門過料三貫文、中使久三郎御叱、瑞仙寺・
羽田町七兵衛無構、且死罪・遠嶋人身附之品關所
遠嶋式人ハ入牢ニ而被御差置、翌午二月十三日御
差立、差添使役佐野長右衛門・町同心網野弥左衛
門・出川勇次

『佐渡国略記』下

史料 1—65

文化七_{庚午}年（一八一〇）

●同（二月）九日、遠嶋人諏訪町留吉・庄右衛門町
六助、右兩人身寄身繼金老分宛・木綿綿入老ツ宛・
手拭老筋宛御役所へ差出ス

『佐渡国略記』下

史料 1—66

文化八_{辛未}年（一八一）

●（三月二十二日）庄右衛門町長十郎貸屋与三吉方
二而、口々八品十八日夜被盜取候段届之

『佐渡国略記』下

史料 1—67

文化八_{辛未}年（一八一）

●同日（四月五日）、銀山大工庄右衛門町善兵衛抱
大工、当月二日逃去候二付、同所福四郎相頼、兩人
二而近在江尋ニ罷出、其夜八時海士町観音堂脇細道
江掛り罷歸候処、米一俵宛負候もの兩人ニ行逢、怪
敷存、何方江持行候哉と相尋候処、見逃二いたし呉
候ハハ酒手相渡可申由聞候故、尚怪敷存、睨と相尋
候処、負候米捨置逃去候故、福四郎を米ニ付置、善
兵衛知人四町目浜町竹助方江罷越、同人相雇、右米
竹助方へ引取預ケ置承合候処、米主ハ下戸村与兵
衛、背負候もの者馬町弥左衛門之由二付、其段昨六
日善兵衛・福四郎方下戸御番所へ相訴候旨、町役人
加印を以書面差出、下戸御番所方も御届有之二付、
双方呼出御吟味之上、同十八日左之通り落着、米主
并背負候馬町弥左衛門悻悻三吉・同人ニ差添背負人
同所源四郎兩人共御叱、抜米ハ式俵共御取上ケ、下
戸村与兵衛儀ハ最初弥三吉ニ被頼米主と申立候段不
埒二付急度御叱、四町目竹次郎ハ米預り置候二付御
叱、訴人善兵衛義ハ本道ヲ不通拔道いたし抜米見咎
捨置候を手寄へ引取置早速可訴出処、数日差置訴方
及延引旁不届二付急度御叱、福四郎義御叱
右御取上ケ米式俵御払ニ相成、馬町平兵衛高札ニ
付、吟味増打合米老石代三貫百七拾式文二而買請
被仰付候

『佐渡年代記』下

史料 1—68

文化八^辛年（一八一二）

●（七月）九日、上相川益藏祖父与左衛門祖父并小前惣代留七外五人之者共連印二而願出候者、上相川之儀ハ一町引離候場所ニ有之、商い方も薄く重二銀山方へ立入渡世いたし、勿論前廉方商人ハ武右衛門・与左衛門両人之処、先年右沢御休山と相成候後は商い方も猶更劣り渡世相成兼、武右衛門義ハ去年下町へ引渡、當時与左衛門老人二而搗米并小間物類商ひ致候処、町内及困窮、追々他町江引移り、年々人数も相減、夫丈ケ商ひ向も手狭ニ相成、与左衛門義も元手薄ニ付夫々行届兼候間、引分れ下町江罷出度旨町内へ及相談候処、外品ハ格別町内ニ米商人無之候而ハ小前之もの共一日之貯さへいたし兼、仕事場と遅く罷歸り庄右衛門町迄飯米買入ニ罷出候而ハ、余程隔り候故至而差支難義ニ付、歩引錢貳百貫文御貸附被下候様願出候処、無抛筋ニハ相聞へ候得共、當時溜り之分無之、五拾貫文二而も不苦候ハハ御貸附可被下段御尋ニ付、町内小前相談之上五拾貫文致拝借ス

『佐渡国略記』下

史料 1—69

文化十^癸年（一八一三）

●同（二月）二日、庄右衛門町とめ悴松次、是迄度々尋被仰付置候処見当不申ニ付、帳外被仰付候

『佐渡国略記』下

史料 1—70

文化十一^甲年（一八一四）

●（十月）十九日、十三年以前戌年、市中湯屋男女入混致間數旨被仰出、組合ニ而隔日ニ男女訳相立有之処、近頃猥りニ相成候向茂有之趣之旨被及御聞、如何ニ付御糺筋にも可被及処、格別之訳を以無其儀、以来等閑之義無之様可相守旨、飯田清七郎殿被仰渡、請書御取被成候組合左之通り

（中略）

外庄右衛門町次兵衛

此者義最寄組合無之場末ニ付、当分入交之積り

『佐渡国略記』下

史料 1—71

文化十三^丙年（一八一六）

●（二月）十一日、庄右衛門町松次義、大御門江張訴致し候ニ付、公事方於御役所御吟味之上書面焼捨ニ相成、当人銀山大工いたし候ものニ付、敷役人江御引渡ニ成ル

『佐渡国略記』下

史料 1—72

文化十三^丙年（一八一六）

●（八月）十九日、庄右衛門町吉次抱大工銀次・六右衛門町安太・下京町豊、御吟味筋有之町預ケ、是ハ初一件狼藉人之内閏八月八日山元江御預替ニ相成

『佐渡国略記』下

史料 1—73

文化十三^丙年（一八一六）

●（八月）廿二日、雲子間歩御直山ニ相成候ニ付、帳附油番兼帶上相川益藏、穿子遣頭四十物町嘉十郎、山留頭米屋町吉右衛門、穿子遣紙屋町市右衛門、山留四十物町政吉、山留庄右衛門町庄五郎、雇山留諏訪町熊平、雇山留坂下町万之助、雇山留味噌屋町兼藏、小遣上相川栄吉

『佐渡国略記』下

史料 1—74

文化十三^丙年（一八一六）

●九月二日、粃米一件ニ付、四町目馬助・石松・曾平、式町目伊之助、下京町喜助抱大工豊、諏訪町石松、町住居江戸水替庄右衛門町此ハ、同断大工町弥四郎々八人御吟味中牢預ケ

『佐渡国略記』下

史料 1—75

文化十三^丙年（一八一六）

●（九月）廿九日、粃一件ニ付大工町利左衛門・次助町角藏・材木町市左衛門、三人共町預ケ、庄右衛門町銀次山預ケ

『佐渡国略記』下

史料 1—76

文化十四^丁年（一八一七）

●（九月）廿五日、庄右衛門町外四ヶ町名主万四郎病死之旨届書差出に付、跡兼帶諏訪町名主立右衛門江申付ル

『佐渡国略記』下

史料 1—77

文化十四丁年（一八一七）

●（十二月）四日、庄右衛門町外四ヶ町名主之儀、中使増右衛門江願之通リ被仰付、跡中使之義ハ隣町役目之者手遠ニ付、庄右衛門町伊太郎当分中使代申付ル

『佐渡国略記』下

史料 1—78

文政二丁年（一八一九）

●（八月）十六日、江戸日本橋油町伝吉、当月十三日小木へ揚、旅人宿庄右衛門方へ落着、庄右衛門町良之助方へ用事有之趣ニ而罷越候処、元江戸水替五郎吉与申者ニ而、三年以前帰国被仰付候者ニ付、則庄右衛門方其旨訴出ニ付、御添管御渡有之、庄右衛門方差添人相附則刻舟場江相返ス、且嘉左衛門町良之助・同所弥四郎両人とも町預ケニ相成ル

『佐渡国略記』下

史料 1—79

文政三丁年（一八二〇）

●四月五日、庄右衛門町三右衛門宿借銀山大工石助義、病氣ニ而銀山へ不相詰処、去十二月家出いたし相歸リ不申、依之方々相尋候へ共今以行衛相知不申段、訴書差出ス

『佐渡国略記』下

史料 1—80

文政三丁年（一八二〇）

●同日（五月十三日）、かなこ次助町金兵衛・同並庄右衛門町宇右衛門、右兩人とも手鎖山預ケ、かなこ米屋町佐助御叱、右御奉行被仰渡

『佐渡国略記』下

史料 1—81

文政三丁年（一八二〇）

一、文政三年辰年同八月江戸水替騒動、其節差配人貳人、庄右工門町常次、間の山吉次、差配人二軒打こわす。

江戸水替差配人常次平人に成ル。改名字兵衛、銀山御雇に成ル。年始交代も勤候。

『浮世噺』

史料 1—82

文政三丁年（一八二〇）

●十月九日、庄右衛門町石助、六度目三十日尋相濟候得共行衛不相知ニ付、帳外被仰付、親類・五人組・町役人御叱

『佐渡国略記』下

史料 1—83

文政四丁年（一八二一）

●（五月）十日朝五時前、江戸水替共多人数申合、地水替請元江戸水替嘉左衛門町住居吉三・同断庄右衛門町卯兵衛相手取、御役所へ駈込訴いたし候ニ付、御利害之上、七ツ時小屋場へ御引渡之処、途中ニ而

腰物・熊手・飛口等奪取、竹鎗等取拵、覚性寺ニ而休足いたし、右吉三・卯兵衛其外庄右衛門町松五郎・地水替寄宿場諏訪町かね宿借源内・同所巳之吉・大工町つるべ七ヶ所狼藉ニおよび候ニ付、為取静、山

方役内江清兵衛・加藤斧八、御目付役桑山牧太・太田九兵衛・早川為四郎・堀口亀五郎、水替掛り三人、其外田上戸右衛門・下山平左衛門・酒匂立四郎・本間五郎右衛門・富田俊助・岩間奎右衛門・堀還右衛門・堀内武四郎・森藤次郎、町同心拾五人・山師・敷役人銀山御雇之者召連出役之上、利害申聞、水替掛リへ引渡相成、右ニ付町方人足拾老人差遣ス

右水替共、町方得物持参ニ付、左之者共夫々訴書差出ス、味噌屋町藤吉方脇差壹腰・刀ノ身壹腰・小刀三挺・小柄一挺、各四品、同所吉兵衛方脇差八腰、新五郎町覚兵衛方熊手壹本・鳶口壹挺、式品、水替共向々へ預ケ置候品、塩屋町与次兵衛方へ古拾壹ツ預ケ置候之処、翌十一日小屋場小遣乙次へ相渡、味噌屋町藤吉方へ綿入壹ツ、さきおり式枚各三品、同所元吉方へ綿入三ツ・拾壹ツ・単物壹ツ各五品

『佐渡国略記』下

（重複のため諏訪町の項には当記事不掲載）

史料 1—84

文政四丁年（一八二一）

●（六月）十三日、江戸水替之者小屋場方罷出駈込願

いたし候二付、夫々御吟味之上、当月左之通御仕置
(中略)

手鎖町預ケ

元江戸水替平人 諏訪町源内・巳之吉

嘉左衛門町松五郎・弥四郎・佐十

庄右衛門町三助

清右衛門町良之助 四町目栄吉

壹町目伊七

(中略)

申口相分レ候二付無構

庄右衛門町新三郎・真衛 銀山町音次

『佐渡国略記』下

史料1—85

文政四_{辛巳}年(一八二二)

●(十一月)廿日、庄右衛門町三右衛門宿借銅山大工八助儀、当九月廿日家出致、今以相帰リ不申、是迄方々相尋候得共何分行衛不相知旨、三右衛門并町役人加印訴書差出ス

『佐渡国略記』下

史料1—86

文政五_{壬午}年(一八二二)

●(四月)廿五日、庄右衛門町三右衛門抱大工八助、六度目三十日尋相済候へ共行衛不相知二付帳外、三右衛門・町役人急度御叱、右御奉行被仰渡

『佐渡国略記』下

史料1—87

文政七_{甲申}年(一八二四)

●(二月)廿二日、四十物町三十郎・嘉左衛門町弥五兵衛兩人、山留頭御免相成候二付、当月五軒役町内へ組込、右跡職庄右衛門町庄五郎・六右衛門町季平次被仰付、軒役壹軒分御差免相成

『佐渡国略記』下

史料1—88

文政七_{甲申}年(一八二四)

●(四月)廿五日、庄右衛門町三右衛門抱大工竹助儀、一昨廿三日四丁め二おゐて喧嘩一件二付、牢預ケ被仰渡、五月二日追込水替被仰付

『佐渡国略記』下

史料1—89

文政七_{甲申}年(一八二四)

●(十二月)六日、水替小屋下改四十物町貞助・庄右衛門町吉次郎、右兩人町役目壹軒分御免二相成

『佐渡国略記』下

史料1—90

文政九_{丙戌}年(一八二六)

●(十一月)廿九日、水車商売致候もの共、銘々白数御尋二付書出ス

白数拾八柄、石扣町六兵衛

内六から投

同三柄 壹町目増蔵 同七柄 坂下町清九郎
同六柄 庄右衛門町庄蔵 同四柄 大工町定八

『佐渡国略記』下

史料1—91

文政十_{丁亥}年(一八二七)

●孔廟御普請中、定入大工之内拾九人・石工式町目久右衛門・鋸師塩屋町吉蔵・鍛冶同所福四郎・塗師壹町目辰之助、合式拾三人教諭所職人被仰付、年始御交代御礼差免、且多人数に付申合五六人程宛御礼可致旨被仰渡ル、定入大工名前

壹町目長次・惣助、三町目啓次・太左衛門・季之助、四町目周蔵、塩屋町金蔵、石扣町条次郎・吉蔵、材木町忠五郎、小六町与七郎、大間町亀次郎、柴町吉兵衛、米屋町源次郎、庄右衛門町茂三郎、五十里籠町季平次・千左衛門・万次郎、窪田村伝四郎

都而教諭所職人者御役銀御差免二成ル

『佐渡国略記』下

史料1—92

天保五_{甲午}年(一八三四)

●(三月)十五日夜九時頃、上相川岩次郎納家出火、本家過半焼失

●右出火之節骨折相働候者、嘉左衛門町森平・八蔵・庄右衛門町弥三次・諏訪町権助・栄吉、右五人江為御手当錢八百文被下之

『佐渡国略記』下

史料1—93

天保五_{甲午}年(一八三四)

●(七月)十一日夜五時、上相川与吉屋敷裏差掛小屋出火有之、外類焼なし

●右出火之節骨折相働候者、頭弥五兵衛・滝右衛門・伊兵衛・辰兵衛・敷役人庄次郎・久右衛門・六人・老人江錢式百文宛、町人足大工町季之助・庄右衛門町八藏・弥三郎・兼藏・四人、老人江錢百四十拾八文宛、右之通御手当被下之

『佐渡国略記』下

史料 1—94

天保五^甲年（一八三四）

●（十一月）庄右衛門町善吉・安兵衛兩人共此節方質屋商売いたし度旨、年行司加印願書差出ス

『佐渡国略記』下

史料 1—95

弘化四^丁年（一八四七）

一 庄右衛門町六助小木町勝右衛門同所船宿勘十郎下代龜吉儀不届有之先年遠島申付候處六助は天保八四年將軍宣下御轉任御兼任御祝儀之御赦勝右衛門外壹人は同十四卯年日光御參詣相濟候御祝儀之御赦に此度差免候旨阿部伊勢守殿御書付を以被仰渡候に付十月廿五日身寄之者へ申渡

『佐渡年代記』下

文献史料 2（諏訪町）

史料 2—1

宝曆期（一七五一〜一七六三）

諏訪町 元禄検地二町屋敷六反五畝十五歩。此所

慶長年中二信州諏訪ノ者当国へ来リテ開発ス。因テ諏訪町ト言フ。此者銀山ヲ稼ク。是ヲ諏訪間歩ト言フ。比類ナキ大力ニテ人畏レ諏訪殿ト言へリ。

橋

鉛坂 此町ノ沢ニ先年鉛山アリ。今ノ鉛坂ニ床屋立テ鉛ヲ吹立ツ。依テ鉛坂ト言フ。

片原町

町長サ十間余リ山岸ニテ片側ハ人家ナシ。依テ片原町ト言フ。正徳ノ頃マテ向側園部忠右衛門ト言ヘル商人ノ土藏一軒山ノ手ニアリ。

『佐渡相川志』

史料 2—2

慶長九^甲年（一六〇四）

一 相川銀山初りてより他國もの夥敷來リ住居す町々の名多くは住居の者の名を取て唱ふ（中略）諏訪町は信州諏訪の者來りて住し

（後略）

『佐渡年代記』上

史料 2—3

慶長九^甲年（一六〇四）

相川府中開発之事

（中略）

偕テ町の名ハ大方山師が居所より別れたれば山仕の名を用る事多し銀山間歩の名も又右の如シ顯々左ニ記ス

（中略）

慶長ノ比諏訪何某來リ住ス

諏 訪 町

（後略）

『佐渡風土記』

史料 2—4

慶長十一^丙年（一六〇六）

一 他國より諏訪殿とて大力の人來り相川諏訪ニ住居したる故町の名とす又大坂間歩の向ふに諏訪間歩取立申により間歩の名とす或時御公儀の拝借銀返納せざる故同心四五人催促に被レ遣候得ば一應の返答も不レ申冬の事にて大雪降りければ壹丈三尺の股本を引き火に焼あてしと也又或時比丘尼來り宿かりけるに長貳尺餘の石を出シ是を枕にと出せしを比丘尼請取此石の中へ右の手を挿入ル諏訪殿も挿入給へハ五ツの指の皮むけて痛み果給ひけると也又諏訪殿ハ信州諏訪の生れにして娘壹人あり江戸へ奉公に出せしに此娘大力にて夫の我儘成義を被レ致しをたぶさをとらへ大黒柱を引上てたぶさを挟み給ふと也其後此娘も當國へ呼被レ申しと也年曆干支不レ知慶長年中之事と申傳ル故此所へ記ス

『佐渡風土記』

史料 2—5

慶長期（一五九六〜一六一五）

●相川府中開発之事

（中略）

○銀山立始り上相川間山開発ニ候哉其外ハ即住居之者ノ名ヲ以町ノ名トス庄右衛門町ハ山師大坂庄右衛

門住居、惣徳町八田中小左衛門後禪門名惣徳ト云、
諏訪町信州諏訪ノ者来り此所ニ住居是ヲ世ニ諏訪殿
ト云

(中略)

○元禄七戌年四月五日ヨリ七月廿八日迄相川町屋敷
御検地御水帳二屋敷石盛末々随銀山盛衰二町々上中
下ノ品可相究由有之ニ付其後御内積り有之候ハ四段
ノ位付左ニ記

(中略)

一ノ位 下戸・下戸炭屋町・四町目・三丁目・式町
目・壹町目・羽田町・大間町・下京町・中京町・上
京町・新五郎町・大工町・諏訪町・庄右衛門町・清
右衛門町・嘉左衛門町、合拾七町

(後略)

『佐渡国略記』上

史料2—6

元和四_{戊午}年(一六八八)

●午四月、御直山並山主自分山合十二ヶ所左ニ記ス
○御直山 滝下間歩・御直山 諏訪町下間歩

(後略)

『佐渡国略記』下

史料2—7

寛永十四_{丁丑}年(一六三七)

十四_{丁丑}

一 十一月二日夜、円徳寺大火事、但付火之由、大
工町・勘助町二丁、諏訪町・庄右衛門町・南沢類
焼也

史料2—8

正保四_{丁亥}年(一六四七)

『佐渡名勝志』

一 六月朔日曉新五郎町若狭與次兵衛と云ものゝ家
より出火し折節東風烈敷其上數日炎天にて水枯故防
方なく火勢盛んにして新五郎町上京町中京町下京町
六右衛門町左門町八百屋町味噌屋町四十物町同心町
米屋町夕白町彌十郎町勘四郎町籠坂等の家々不殘類
焼し又上通りは大工町諏訪町次助町庄右衛(門)町
間山迄焼亡し陣屋を始め運上屋土藏極印座土藏並岡
林傳右衛門久保新右衛門坪井六左衛門古幡嘉兵衛其
外役人の住宅三拾七軒後藤座役所土藏とも不殘類焼
し焼死のもの七八人有之趣(後略)

『佐渡年代記』上

(重複のため庄右衛門町・次助町の項には当記事不掲載)

史料2—9

天和元_{辛酉}年(一六八一)

一 鈴木三郎九郎家來柳川儀右衛門と云もの算術に
達し國中町見をなし今年十月迄に相川町中銀山内下
相川羽田下戸西濱通り五十里十歩一迄の町敷を量り
翌年二月廿一日より六月十六日迄在々町見をなし分
見繪圖を記して三郎九郎より進達す此節町見をなし
たる里數左の如し

(中略)

一 相川町敷八拾壹町 但上組は庄右衛門町より
上相川迄中組は味噌屋町より南澤次助町諏訪
町迄下組は籠坂より馬町柴町迄

(後略)

『佐渡年代記』上
『佐渡国略記』にも同一の記事あり、省略)

史料2—10

享保八_{癸卯}年(一七二三)

●同(四月) 廿六日夜、庄右衛門町嘉左衛門二代
伊右衛門年式拾三、諏訪町忠右衛門女房はつ年
三十一、上寺町法久寺山二而心中致相果申候

『佐渡国略記』上

史料2—11

延享元_{甲子}年(一七四四)

●同(八月) 十三日、板町三郎兵衛・北沢権藏・大
間町徳十郎・諏訪町権兵衛・間山半助・相川町九兵
衛六人入牢、廿三日御免

『佐渡国略記』上

史料2—12

延享元_{甲子}年(一七四四)

●同(十二月) 廿七日、諏訪町茂助入牢

『佐渡国略記』上

史料2—13

延享元_{甲子}年(一七四四)

相川町中町積之事並家数人員之事
元文二巳年改書 六十間一町

(中略)

○一 諏訪町 長一町四十二間三尺 道幅 九尺
一 建家 廿六軒外七軒明地
此役目廿七軒

百九十六人男八十六人 女十一人 座頭一人

(後略)

『佐渡名勝志』

史料2—14

延享元甲子年(一七四四)

相府町間法 末紙ニ絵図ヲ出セリ、可ニ参考ス

(前略)

片原町上大工町境ヨリ吉兵衛前迄

○一 百間三尺内鉛坂廿五間 諏訪町分

都合 十一町十四間四尺

(後略)

『佐渡名勝志』

史料2—15

延享元甲子年(一七四四)

御修覆之橋並大溝小板橋之事

(中略)

一 諏訪町庄右衛門町境ノ大溝

小橋 幅四尺長八尺

(後略)

『佐渡名勝志』

史料2—16

延享四丁卯年(一七四七)

●同十月十七日、諏訪町板取権助相川出立

『佐渡国略記』上

史料2—17

寛延二己巳年(一七四九)

●同(十二月)七日夜、諏訪町名主徳兵衛親子式人

横死致候、是者町内之者名前ヲかり亡判致、御救金
拝借致、返納相滞申分難立故、相果候由

『佐渡国略記』上

史料2—18

寛延三庚午年(一七五〇)

●同(三月)四日、下寺町昌安寺遷化、年六拾四、
是者高安寺梅庵弟子ニ而諏訪町正木次郎左衛門男
子、親本米や町六右衛門ト云

『佐渡国略記』上

史料2—19

宝暦四甲戌年(一七五四)

●同(十一月)三日夜、諏訪町(欠) 少々出火

『佐渡国略記』上

史料2—20

宝暦五乙亥年(一七五五)

●亥八月十一日、諏訪町辰次郎下人、年廿六、欠落

『佐渡国略記』上

史料2—21

宝暦期(一七五一—一七六三)

町々 名主中使

往古ハ町々ニ名主モナク中使モナシ。家屋敷等売買
ノ時町中ニテ証人ヲ立ツ。是ヲ月行司ト言フ。其後
地子山崎雇役ノ公納始リ一、二町或ハ二、三町組合ニ
中使ヲ定ム。其外町中ニテ重立タル町人ヲ其処ノ町
年寄ト言フ。当時ノ町年寄ニハ異リ寛文四甲辰年六月
十日町名主ヲ定ム。是ヨリ名主中使ノ名アリ。

(中略)

諏訪町 名主 吉兵衛

中使 大工町兼帯

(後略)

『佐渡相川志』

史料2—22

嘉永四辛亥年(一八五二)

一 十月十五日中尾間歩長太郎敷普請場急破有之手
傳穿子諏訪町與助と云ふ者即死其外怪我人有之に
付夫々及手當

『佐渡年代記』下

史料2—23

明和五戊子年(一七六八)

●同(正月)廿一日、諏訪町南側山崩、廿三日矢木
三拾三本山留分遣御普請有之

『佐渡国略記』下

史料2—24

明和六己丑年(一七六九)

●同(三月)六日夜、諏訪町九兵衛、夕白町神明境
内ニ而横死

『佐渡国略記』下

史料2—25

明和七庚寅年(一七七〇)

●寅六月廿四日、諏訪町万行寺帰国、是者此度飛縁
之官職申請ニ上京

『佐渡国略記』下

史料2—26

安永三^甲年（一七七四）

●同（十月）十七日、三町目中使、塩屋町名主、濁川名主・中使、大間町名主、弥十郎町・四十物町名主、上京町中使、各是迄兼帶動来り候所、向後者一町切二町役人相定候由被仰付、併六右衛門町・次助町・諏訪町・間山四町・上相川者は迄之通り

〔佐渡国略記〕下

史料2—27

天明三^{癸卯}年（一七八三）

●（八月）廿三日、相川町々新規二御組分相成、町々町役人不残被召出、町方懸り・広間役立会被仰付、組分左ノ通

江戸 柑本久蔵組

吉村儀市郎・吉田林右衛門・横田五兵衛・中川丈右衛門・三国伊平次・伊藤三右衛門

羽田町・門前町・壱丁目・式丁目・三丁目・五

郎左衛門町・南沢・大工町・諏訪町・次助町・境沢

（後略）

〔佐渡国略記〕下

（重複のため次助町の項には当記事不掲載）

史料2—28

天明四^{甲辰}年（一七八四）

●（五月）十三日、諏訪町久八女房いと風聞不宜、御吟味之上久八御叱二而相済、女房いと八相川御構、八幡村親類共へ御渡

史料2—29

寛政二^{戊戌}年（一七九〇）

〔佐渡国略記〕下

（前略）

一、同（御払米）拾八石

羽田町 助右衛門

諏訪町 熊次郎

中京町 石松

此助右衛門、先主人致困窮候処、幼少之子共耆人有之候ニ付引取相育罷有、至而困窮之ものニハ御座候へとも、甚深切成もの由ニ御座候、且又熊次郎・石松義者相川町中ニ無之実体寄持もの由及承候間、尚又町年寄其外名主等へも相尋候処、無相違段申之候間、可相成御義ニ御座候ハハ、彼もの共一生之内町方人別買米之外ニ、何卒一ヶ月耆人ニ付御蔵御払米五斗宛買請被仰付候様仕度奉存候

（後略）

〔佐渡国略記〕下

史料2—30

寛政二^{戊戌}年（一七九〇）

●端米代割返二付、町々割合帳面差出候二付、与助様へ差上候処、於町会所、小頭衆立合相渡候節、小前之もの家内人数之内耆人ツツ呼出し相渡候而可然由被仰付候、十七日と廿一日迄日数五日ニ割合、下組三日、上組二日ニ相渡、小前請取印形取、割合左之通

（中略）

百三拾三人 耆人廿六文

三貫六百拾文

諏訪町

（中略）

〆三拾四口

〔佐渡国略記〕下

史料2—31

寛政二^{戊戌}年（一七九〇）

●（九月）廿五日、諏訪町立右衛門・上相川与十郎、右兩人銀山御入用諸品買入方御請負申上、前拝借六拾五貫文借請候二付、兩人所持之家屋敷質物ニ差上、代錢八拾貫文、見分御目付役西川鉄三郎様・小頭中川和久右衛門・我等罷越ス

〔佐渡国略記〕下

史料2—32

寛政八^{丙辰}年（一七九六）

●（八月）十六日、諏訪町伝七、上京町留助方へ罷越及狼藉候二付、先達而町預ケ被仰付候処、被召出追込二成、尤留助并同人母療治代として錢六貫文伝七方可相渡段、諏訪町役人江被仰渡、右於御裁許所御奉行様御直被仰渡候

〔佐渡国略記〕下

史料2—33

寛政十^{戊午}年（一七九八）

●（十一月）廿四日、羽田町久兵衛・上京町已之助・大工町善蔵・諏訪町庄八・庄右衛門町庄次郎、本途買石被召放、家屋敷御取上ケ、御目付役山西与三兵

衛・下山左太夫、小頭中川・横田、仲間方甲賀・岩佐罷出ル

『佐渡国略記』下

史料2—34

寛政十二_{庚申}年（一八〇〇）

●（四月）廿六日、元江戸水替式町目定吉・市町喜作・諏訪町文次郎、外嘉左衛門町森平、四人共平日身持不埒二付、追込水替被仰付

『佐渡国略記』下

史料2—35

享和元_{辛酉}年（一八〇一）

●（二月）九日、諏訪町文次郎・式町目定吉・市町喜作、去年三月追込水替被仰付候処御免

『佐渡国略記』下

史料2—36

文化三_{丙寅}年（一八〇六）

●（十月）十八日、米俵成商人式町目もく・大工町喜十郎・新兵衛・友白町つや・諏訪町立右衛門・庄右衛門町万吉・南沢庄左衛門・上京町与右衛門・米屋町利右衛門・柴町徳兵衛・濁川町磯右衛門・九右衛門・小六町五兵衛・石扣町吉右衛門・四町目源七・炭屋町彦兵衛・幸次郎・安兵衛・紙屋町喜七、十九人、右之者共俵形米高利ヲ貪候段不埒二付、町預被仰付候

『佐渡国略記』下

史料2—37

文化四_{丁卯}年（一八〇七）

●同日（四月十八日）、買石羽田町久兵衛・上京町文吉・諏訪町庄八、右三人共青盤間歩鏈目利違有之、吹不足致二付、職分等閑故手鎖被仰付、同廿七日御差免

『佐渡国略記』下

史料2—38

文化六_{己巳}年（一八〇九）

●同（十月）十六日、中寺町瑞仙寺押込ミ一件二抱り候もの共御仕置、江戸水替山内住居幸次死罪、諏訪町留吉・庄右衛門町六助両人者遠嶋、新五郎町幸作・大工町藤八両人ハ重敵ニ而無構、新五郎町名主次郎右衛門過料三貫文、中使久三郎御叱、瑞仙寺・羽田町七兵衛無構、且死罪・遠嶋人身附之品闕所遠嶋式人ハ入牢ニ而被御差置、翌午二月十三日御差立、差添使役佐野長右衛門・町同心網野弥左衛門・出川勇次

『佐渡国略記』下

史料2—39

文化六_{己巳}年（一八〇九）

●去ル午年御蔵御困粉、此度石扣町六右衛門江摺立被仰付、右正米三百七拾五石糶入札直段、老石二付三貫式百七拾式文之当りを以、市中町人中分以下貧窮者江御払被下置候間、糠俵粉米を世話料ニ致し、小町之分者隣町へ組合、手馴候もの方ニ而掲立、売出方為引請可申、右買請人数并引請人名前取調へ差

出候様、飯田清七郎殿被仰付、依之町役人江申聞取しらへ差上ル

一、中困窮人 式千八百七拾八人

一、極困窮人 三千五百九拾人

右売出方引請人

（中略）

諏訪町

次助町 名主 立右衛門

（中略）

右摺立正米、老石二付代銭三貫式百七拾式文二、四拾文遠近平均駄賃、式百文掲賃、ノ三貫五百拾六文、但八分減ニシテ搗米老升三拾六文七分二相当り候二付、三拾七文ニ売出可申哉之旨相伺候処御聞届有之、且玄米ニ而買請望のもの江は、駄賃計り差加へ、老升三拾老文八分余ニ相当り候二付、三拾式文ニ売出御聞届有之

『佐渡国略記』下

（重複のため次助町の項には当記事不掲載）

史料2—40

文化七_{庚午}年（一八一〇）

●同（二月）九日、遠嶋人諏訪町留吉・庄右衛門町六助、右両人身寄身身継金老分宛 木綿綿入老ツ宛・手拭老筋宛御役所へ差出ス

『佐渡国略記』下

史料2—41

文化九_{壬申}年（一八一二）

●（七月）十七日、諏訪町長左衛門申三十一歳、右

之者姫津村江稼二罷越、当月十四日夜烏賊漁罷出難風二逢、行衛無相知段訴ル

『佐渡国略記』下

史料2—42

文化九^壬年（一八一二）

●同日（八月六日）、銅山大工諏訪町まつ孫常八申二十三歳、去六月廿日家出したし、山元江も相詰不申、是迄在相川共相尋候得共未行衛不相知段御訴申出候処、九月六日迄三十日尋被仰付候

『佐渡国略記』下

史料2—43

文化十一^甲年（一八一四）

●（八月）廿二日、鳥越間歩大工諏訪町条次・江戸水替町住居四十物町幸作、兩人共御吟味之筋有之牢預ケ、是者五郎左衛門町松次首縊候一件御尋筋有之

『佐渡国略記』下

史料2—44

文化十一^甲年（一八一四）

●（九月）四日、諏訪町条助妻女かや御吟味中牢預ケ

『佐渡国略記』下

史料2—45

文化十三^丙年（一八一六）

●（閏八月）五日、諏訪町とく子二十六歳、同人娘てる子二歳、右之者儀去月中旬在方近付之方江用向有之由二而罷出、不罷歸候二付、所々相尋候得共行衛不相知段、妹きん・五人組十五郎・町役人加印二

而訴書差出、則三十日尋被仰付候

『佐渡国略記』下

史料2—46

文化十三^丙年（一八一六）

●（十一月）廿二日、粃米一件落着

（中略）

諏訪町庄右衛門、（中略）此七拾四人急度御叱

（中略）

諏訪町石松、銀山追込大工

（中略）

右町々名主・中使・町代之者六拾八人急度御叱

（中略）

右於御裁許御奉行水野藤右衛門様被仰渡有之、右之もの共為差添伊藤三右衛門・甲賀吉郎御縁側江罷出ル

『佐渡国略記』下

史料2—47

文化十四^丁年（一八一七）

●（正月）十二日、下寺町円徳寺住持、粃米一件寄会宿致二付逼塞被仰付罷在候処御免、諏訪町石松・米屋町喜兵衛・大工町清次郎・次助町角藏、右一件二付銀山敷内追込之処御免

『佐渡国略記』下

史料2—48

文化十四^丁年（一八一七）

●（二月）九日、諏訪町とく・同人娘てる兩人共行衛不相知二付、是迄数度尋被仰付候処、不尋出二付、

右兩人者帳外被仰付、親類宇兵衛町役人者御叱

『佐渡国略記』下

史料2—49

文化十四^丁年（一八一七）

●（七月）十九日、諏訪町きん丑二十五歳、右之者当月十一日家出したし帰宅不致二付、親類五人組之者共方々相尋候得共行衛不相知段相届、則尋方被仰付候

『佐渡国略記』下

史料2—50

文化十四^丁年（一八一七）

●（九月）廿五日、庄右衛門町外四ヶ町名主万四郎病死之旨届書差出に付、跡兼帯諏訪町名主立右衛門江申付ル

『佐渡国略記』下

史料2—51

文化十五^戊年（文政元年）（一八一八）

●（正月二十五日）次助町・諏訪町中使磯右衛門儀、昨廿四日病死之旨届出候二付、当分兼帯大工町中使平兵衛へ申付ル

『佐渡国略記』下

史料2—52

文化十五^戊年（文政元年）（一八一八）

●（二月）壹町目きま・同所うた・下戸炭屋町しも・諏訪町きん、右四人之者共先達而出奔いたし届出二付、夫々尋被仰付候得共不尋出二付、四人共帳外被仰付、親類町役人御叱

『佐渡国略記』下

史料2—53

文政^元戌年（一八一八）

●（十二月）廿八日、諏訪町ちやう・板町次助、右兩人共困窮、当日取凌方無之、至而艱難二相暮候二付、町役人・五人組先達而御救之義願出候処、当日被召出、鳥目三貫文宛被下之

『佐渡国略記』下

史料2—54

文政^二己卯年（一八一九）

●（九月）廿六日、石扣町丹次ち小六町次郎兵衛へ、諏訪町庄右衛門ち同所清次郎へ、右同断（古着鑑札譲渡）

『佐渡国略記』下

史料2—55

文政^三庚辰年（一八二〇）

●同日（六月二日）、去月町役人共願出候大のミはき之儀、此節御取調有之処、右体御差図ケ間敷儀願出、尤町内小前之者へも不及、町代印形取揃差出不埒二付、当日左之通被仰付

（中略）

町代諏訪町庄八買右職分をも乍勤不埒二付急度御叱、町代式拾八人御叱

『佐渡国略記』下

史料2—56

文政^三庚辰年（一八二〇）

●（六月）雲子穿子遣頭諏訪町熊平家内式人分、此

買米一ヶ月壹斗六升六合壹勺、中尾間歩山留四十物

町多助家内四人分同断三斗壹升貳合貳勺、当六月ち御引上二相成

『佐渡国略記』下

史料2—57

文政^三庚辰年（一八二〇）

●同日（十二月二十六日）、銀山仕事師共賃錢之儀、皆金二而御渡有之、金子二而者払方相成兼候二付、市中商人共江引替被仰付被下候様かなこ共願二付、可相成者高五百兩之内半分通りも為引替申度、商人共へ其旨申聞候様千賀多兵衛殿ち御談有之二付、左之者共貳拾五人呼出申談候処、老人ち六兩分宛引替之積り、且兩替六貫六百元、外兩替屋ち三拾兩引替之積り、右引替錢翌廿七日、山方役所江差出、則金子請取

羽田町幸七、壹町目小兵衛・伊右衛門・嘉十郎、三町目金五郎、四町目仁兵衛・源七・甚平・五兵衛・善兵衛、下戸町伊左衛門、小六町五兵衛、紙屋町季七、柴町藤三郎・幸七、炭屋町佐次兵衛・長四郎、味噌屋町本吉、下京町与右衛門・善兵衛、米屋町利右衛門、新五郎町代右衛門、大工町季十郎・吉郎平、諏訪町立右衛門

『佐渡国略記』下

史料2—58

文政^四辛巳年（一八二一）

●（三月）廿九日、十ヶ年御定免切替二付、左之通

相認、地方御役所江差出又

乍恐書付を以奉願上候

相川町役人共御願申上候、当所去辰年一ヶ年御定免御座候処、当巳年御切替二付、一同打寄相談之上、是迄之御取箇辻二而、尚又引続当巳年ち来ル寅迄十ヶ年御定免奉願上候、何分格別之御慈悲を以、右願之通被下候ハハ難有可奉存候、以上

文政四巳年三月

相川町惣代

諏訪町名主 立右衛門

庄右衛門名主 増右衛門

上相川名主 平四郎

御奉行所

（下ケ札）

本文御願奉申上候処、増方可仕旨御尋二御座候得共、増方仕兼候間、何卒本文願之通被仰付被下置候様奉願上候、依之乍恐下ケ札を以奉申上候、以上

『佐渡国略記』下

（重複のため庄右衛門町の項には当記事不掲載）

史料2—59

文政^四辛巳年（一八二一）

●（六月）十三日、江戸水替之者小屋場ち罷出駈込願いたし候二付、夫々御吟味之上、当月左之通御仕置

（中略）

手鎖町預ケ

元江戸水替平人 諏訪町源内・巳之吉

(後略)

『佐渡国略記』下

史料2—60

文政四^{辛巳}年(一八二二)

●(六月)廿二日、元江戸水替平人吉町目伊七、四町目栄吉、諏訪町巳之吉、嘉左衛門町松五郎・三助・弥四郎・佐十・良之助、右八人之者とも先達而手鎖町預ケ被仰付罷在候処、当日手鎖町預御免之上、銀山町住居被仰付

『佐渡国略記』下

史料2—61

文政四^{辛巳}年(一八二二)

●元江戸水替平人嘉左衛門町甚八・吉太・熊次郎、右三人共追込水替被仰付罷在候処、当日御免之上銀山町住居被仰付、同断諏訪町源内手鎖町預ケ之処、御免之上銀山町住居被仰付

『佐渡国略記』下

史料2—62

文政四^{辛巳}年(一八二二)

●町々請酒屋惣代、米屋町政八外三人之者共、他国酒仲買之者とも相手取、商売方之儀二付、先達而出入願差出二付、御札之上銀山町善兵衛・諏訪町立平立込取扱、右惣代として願出候四人之内、米屋町政八・権七兩人之者仲買商人二相加へ、都合拾壱人限り仲買いたし候事ニ内談相調、依之先達而上候願書御下ケ被下候様、双方連印書付差出、願之通御聞届有之

『佐渡国略記』下

史料2—63

文政五^{壬午}年(一八二二)

●(四月)十五日、諏訪町庄右衛門質屋商売相止候旨、鑑札相添届書出ス

『佐渡国略記』下

史料2—64

文政五^{壬午}年(一八二二)

●(六月)十九日、灯油店売・同振売・味噌醬油屋共願之上、新規鑑札御渡有之、左之通請書御取被成

(中略)

灯油店売羽田町寛左衛門・幸七・下戸炭屋町伊三郎・庄五郎・弥吉・柴町新吉・味噌屋町八十吉、灯油店売・同振売とも下戸町与兵衛・三町目金五郎・留次郎・彦太郎・長之助・吉蔵・益次郎・式町目善次郎・吉町目磯右衛門・小六町弥三次・材木町定吉・濁川町小兵衛・紙屋町七兵衛・炭屋町茂八・利右衛門・大工町市兵衛・諏訪町清次郎・羽田町源十郎・坂下町季八

『佐渡国略記』下

史料2—65

文政五^{壬午}年(一八二二)

●十一月朔日、市中之内、孝心奇特もの拾六人被召出、左之通夫々御褒美被下之

(中略)

同 三貫文宛 小六町はや・米屋町栄次郎・南沢

熊太郎・大床屋町惣右衛門・諏訪町梅次郎

(後略)

『佐渡国略記』下

史料2—66

文政八^{乙酉}年(一八二五)

●三月二日、諸色直段之儀二付御書付を以被仰出、町々ヲ四組ニ引分ケ、町年寄壱人二町役人之内并重立ヲも差加へ下懸り申付、一ヶ月分宛四組分帳面ニ相認メ可差出旨、才右衛門殿ヲ被申渡候二付、左之通組分ケ、下懸名前取調書上候処、同十一日一同御吟味所へ被召出、御目付役堀口市太夫立会、河嶋才右衛門殿・益田丹右衛門殿出席、諸色直段引下ケ方之儀厚く心を用、世話可致旨被申候

(中略)

下京町 八百屋町 会津町 中京町 上京町
左門町 大床屋町 新五郎町 六右衛門町
南沢 大工町 諏訪町 次助町 庄右衛門町
清右衛門町 嘉左衛門町 五郎右衛門町
惣徳町 上相川
右町々藤沢虎之助・新五郎町名主久兵衛・嘉左衛門町名主増右衛門・新五郎町助・下京町与右衛門・大工町季十郎・諏訪町立平

『佐渡国略記』下

(重複のため庄右衛門町・次助町の項には当記事不掲載)

史料2—67

文政八^{乙酉}年（一八二五）

●（五月）七日、銀山御入用出金願書川嶋藤三郎・山田茂平次組合老通、難波屋惣兵衛・山形屋惣助老通、三町目金五郎老通、大工町季十郎一通、諏訪町立右衛門外七人二而老通、^ノ六通差出二付、堀口弥右衛門殿へ上ル

『佐渡国略記』下

史料2—68

文政八^{乙酉}年（一八二五）

●（十月）三日、金銀山御稼入用之内江先達而出金相願候もの共被召出、於席々左之御書付を以御目付役太田九兵衛立会、河嶋才右衛門殿被申渡、米屋津兵衛始外拾粍人惣代として下京町与右衛門・米屋町利右衛門・新五郎町甫助・大工町季十郎右四人町方御番所へ被召出被申渡有之

町年寄格両替屋

川嶋藤三郎

（中略）

其方儀金銀山御入用之内へ出金之儀先達而申立段寄特之至二付、相川重立町人之名目二而屋号差免

郷宿 米屋津兵衛

諏訪町 立右衛門

四町目 仁兵衛

（中略）

右之通り夫々被仰付

^ノ

史料2—69

天保五^{甲午}年（一八三四）

『佐渡国略記』下

●（三月）十五日夜九時頃、上相川岩次郎納家出火、本家過半焼失

●右出火之節骨折相働候者、嘉左衛門町森平・八蔵・庄右衛門町弥三次・諏訪町権助・栄吉、右五人江為御手当錢八百文被下之

『佐渡国略記』下

史料2—70

天保五^{甲午}年（一八三四）

●（三月）廿九日、新五郎町つき・下戸炭屋浜町兼吉・市町兼蔵・諏訪町五郎兵衛・次助町幸次郎、右五人共出奔尋相済候二付帳外、右御奉行被仰渡

『佐渡国略記』下

史料2—71

天保六^{乙未}年（一八三五）

●（八月）十二日、諏訪町立平貸屋吉次儀、当七月十八日家出いたし爾今不相帰旨訴書差出ス

『佐渡国略記』下

文献史料3（次助町）

史料3—1

宝曆期（二七五一〜二七六三）

次助町

町長サ式百三十間御陣屋迄八丁廿五間三尺畑一反五畝八歩町屋敷一反四畝十六歩

北小路

是ヨリ大工町

南小路

是ヨリ峠

北小路

是ヨリ諏訪町

相沢

切抜キ沢トモ言フ

堺沢

元禄検地ニ畑壹反八畝廿四歩、町屋敷四反四畝廿四歩。今ハ人家ナシ。

泉沢

実跡不知上相川茶屋坂ノ岩崎町外此処ニモアリシヨシ。

小糠町

今西光寺門前ヨリ寄床屋ノ前迄ノ道筋。昔京都柳馬場ノ者当国へ来リ、此処ニテ毎日搗売ノ米ノ商ヲ業トス。多クノ米故其小糠此町筋ニ散在ス。依テ小糠町ト言フ。此米屋当時大工町七右衛門ノ先祖ナル由。

樋道

此処ヲ樋道ト名ツクル事実不分明ナリ。或説ニ今陣屋ノ敷地ヨリ中通リ昔ハ田畑ニテ上相川幸ヶ沢ノ水ヲ此処ヨリ掛樋ニテ取りシ故ニ名トス。又或説ニ金銀山敷

内ノ水上輪以前ノ寸法樋此処ヨリ仕出ス。依テ樋道ト言フ。

峠

南沢ヨリ登リノ絶頂ナル故ニ峠ト名ツク。享保ノ初迄此処黒物屋ト言フ買石ニ軒アリ。或時落雷シテ黒物屋ノ宅ヲ損ス。其跡ニネリ物ノ様ナル銚子アリ。世人雷公ノ銚子ト称ス。諸寺ニ開帳等ノ節見世物ニ出ス。此銚子在辺ニアルヨシ。

銀津

峠ノ下ヲ言フ。昔銀津次郎右衛門ト言フ買石アリ。此者浄土宗ナレバ阿弥陀如来ノ尊像ヲ安置シ奉ルニ或夜次郎右衛門夢ノ告ニ仏像ヲ時岡弥右衛門方ハ守行クベシト。依テ弥右衛門ニ譲リシトナリ弥右衛門門前ニアリ。今ハ津右衛門ト並居ス。其跡ハ今ノ時岡本立ナリ。

『佐渡相川志』

史料3—2

慶長期（一五九六～一六一五）

●相川府中開発之事

（中略）

三ノ位 五郎左衛門町・板町・紙屋町・炭屋町・味噌屋町・山先町・弥十郎町・夕白町・左門町・大床屋町・治助町・五郎右衛門町・相川町・小右衛門町・九郎左衛門町・南沢・坂下町、合拾七町

（後略）

『佐渡国略記』上

史料3—3

承応^三甲午年之賦（一六五四）

●午年、相川間山^五出火、上相川本町・治助町・南沢迄類焼之由、松木迄ト有之候間、何方ニ候哉難知、但一説ニ寺町円徳寺^五出火共云

『佐渡国略記』上

史料3—4

延宝^四丙辰年（一六七六）

●辰、村上善左衛門・銀津又右衛門・治助町清左衛門、山ノ神愛宕堂江双六打ニ参、其節片山了玄看坊勤居、其日ハ他出致、右三人木蔭ニ而四方山ノ咄致居ル所へ、長ケ六尺余之山伏来リ、堂ノ縁ニ腰ヲ掛居申候処へ、又出家ノ形地ニ而団ヲ持来リ、其言ニハ早く御出、連ニ挨拶一二事終リ、跡ハ如何ニ成候やと申候処、河内^五何レ之町々迄縄張致シ置候と山伏申、暫ク休足ノ鉢ニテ式人ともニ飛行ス、右三人ノ者石坂ヲ下リシ処了玄ニ逢、右ノ次第ヲ語り、又右衛門伯父酒田ニ居候間早速状の遣候処、山伏ノ申候縄張りノ如ク少も無相違焼失ト、酒田ハ羽州ニ而川内ト云も此所ノ小名之由、了玄ハ片山法善女房ノ甥ニ而、大坂へ登リ其後京都愛宕山ニ好身有諸国江火札ヲくぼり、此節ハ愛宕山ニ看坊

『佐渡国略記』上

史料3—5

天和^辛元年（一六八一）

一 鈴木三郎九郎家來柳川儀右衛門と云もの算術に達し國中町見をなし今年十月迄に相川町中銀山内下

相川羽田下戸西濱通り五十里十歩一迄の町數を量り翌年二月廿一日より六月十六日迄在々町見をなし分見繪圖を記して三郎九郎より進達す此節町見をなしたる里數左の如し

（中略）

一 相川町數八拾壹町 但上組は庄右衛門町より上相川迄中組は味噌屋町より南澤次助町諏訪町迄下組は籠坂より馬町柴町迄

（後略）

『佐渡年代記』上

『佐渡国略記』にも同様の記事あり、省略

史料3—6

享保^十乙巳年（一七二五）

●同（三月）六日酉刻、治助町鍛冶六藏家^五軒焼失

『佐渡国略記』上

史料3—7

元文^五庚申年（一七四〇）

●同（十二月）九日夜、壹丁目久右衛門娘おさの、次助（町）太右衛門^五太兵衛婚礼

『佐渡国略記』上

史料3—8

寛保^二壬戌年（一七四二）

●同（三月）九日、治助町太右衛門^五太兵衛女房男子平産

『佐渡国略記』上

史料3—9 延享元^甲年（一七四四）

相府町間法 末紙二絵図ヲ出セリ、可^ス参考^ス
（前略）

大門ヨリ治介（助）町入口角迄

○一 八町三十四間一尺

太右衛門角ヨリ桐木沢光（興）禪寺坂境迄

○ 二百廿九間 治介（助）町分

都合 十二町廿三間一尺

（後略）

『佐渡名勝志』

史料3—10 延享元^甲年（一七四四）

相川町中町積之事並家数人員之事

元文二巳年改書 六十間一町

（中略）

○一 次助町 長三町四間一尺五寸 道幅 九尺

一 建家 廿六軒外十八軒明地

此役目五十四軒 百五十八人^{男七十六人 女子十九人}

（後略）

『佐渡名勝志』

史料3—11 寛延三^庚年（一七五〇）

●同五月二日、後藤福嶋数右衛門江戸へ帰ル、此節^等下京町蓮長寺弟子善燈渡海、是者出生相川治助町二而、母未存命、町同心野沢軍記、同祖右衛門從弟、蓮長寺現住覺性寺二在住之節之弟子二而、十一年以

前江戸江罷越、四谷善龍寺二居申、八月十一日二帰ル

『佐渡国略記』上

史料3—12 寛延四^辛年（宝暦元年）（一七五一）

●未六月十日、四町目安右衛門他国へ罷帰、是ハ去年御入用油請負主小六町五兵衛・京町嘉十郎・羽田町覺左衛門・石扣町六兵衛各仲間右安右衛門油調二他国江差越候節、金子式百兩余相渡、去午五月出御判申請小木へ出船、致帰国延引上、其後安右衛門迎之飛脚式三度差越候得共、行方不知、此度罷帰候処、油茂相調不申、勿論金子茂皆々自分商事等二損失致候由二而、少茂持參不仕、安右衛門妻ハ次助町太右衛門娘

『佐渡国略記』上

史料3—13 宝暦二^壬年（一七五二）

●同（四月）七日、於御広間、月番役天野伝右衛門、書付を以諸役人江被仰渡候趣、左二記
別紙帳面之通、銘々為家作料、割合之通被下候間、請取之可申候、御役家住居并今度御役家明之分共、家屋被下之候間、已来自分修覆致いか様二も取縮可致、住宅候自分宅借家二而罷有候者ハ、明地之内相応屋敷被下候間、勝手次第家作可致候、尤向後ハ御役家ハ相止候間、其旨可被改候
（中略）

治助町

一、四拾坪 山田半右衛門

（後略）

『佐渡国略記』上

史料3—14 宝暦四^甲年（一七五四）

●同（二月）二日、初午年賀、小木定役水品弥五右衛門、夷番所役岡村善兵衛・近藤庄兵衛、四丁目滝浪玄春、治助町名主多右衛門、塩や町松物屋半次郎

『佐渡国略記』上

史料3—15 宝暦五^乙年（一七五五）

●同（正月）廿一日、竹本市太夫、兼而願之通隠居、岩佐玄の男子官治名跡二、則治助町寄床屋敷、御代官六右衛門様御役所二而被仰付

『佐渡国略記』上

史料3—16 宝暦六^丙年（一七五六）

●子二月廿四日、治助町太右衛門妹、夷町加賀屋利右衛門方江婚禮

『佐渡国略記』上

史料3—17 宝暦九^己年（一七五九）

●同（正月）廿一日、次助町（欠）大間浜海二而死

『佐渡国略記』下

史料3—18 宝暦期（一七五一〜一七六三）

大床屋町 寄 床

先年上床屋町大床屋町両所二大小床屋六十軒アリ。

其後町床屋始り、諸買石自分ニ金銀ヲ吹立ツ。享保八^{癸卯}年九月買石ノ内床屋六軒ニ定メ外ノ吹停止ナリ。銘々吹子ハ雜藏ヘ納ム。同十^{乙巳}年四月茶屋町、大床屋町、板町、三ヶ所ニ立ツ。是ヲ寄床屋ト言フ。同十九^{甲寅}年四月茶屋町ノ床屋ヲ五郎右衛門町ヘ引ク。其後次助町ヘ移ス。板町床屋ハ北沢ヘ引ク。是ハ宝曆三^{癸酉}年ニ止ム。当時ハ次助町、大床屋町ニヶ所ナリ。

井上儀右衛門 鳥井作右衛門
山田新八郎 山西八左衛門
次助町 寄 床
水原要助 竹本官次 藏田彦右衛門

『佐渡相川志』

史料3—19 宝曆期（一七五一—一七六三）

町々 名主中使

往古ハ町々ニ名主モナク中使モナシ。家屋敷等売買ノ時町中ニテ証人ヲ立ツ。是ヲ月行司ト言フ。其後地子山崎屋役ノ公納始リ一、二町或ハ二、三町組合ニ中使ヲ定ム。其外町中ニテ重立タル町人ヲ其処ノ町年寄ト言フ。当時ノ町年寄ニハ異リ寛文四^{甲辰}年六月十日町名主ヲ定ム。是ヨリ名主中使ノ名アリ。

（中略）

次助町境沢 名主 太右衛門
中使 大工町兼帯

（後略）

『佐渡相川志』

史料3—20 明和二^{乙酉}年（一七六五）

●同日（七月二十九日）、今月六日於江戸次助町太右衛門悻徳三郎致死去之由申来り、年十六歳、是ハ中沢与七郎致供江戸へ身上稼ニ罷越

『佐渡国略記』下

史料3—21 明和三^{丙戌}年（一七六六）

●同二月朔日、鳥越間歩勘左衛門間切初鍾差上、かなこ次助町孫兵衛、久例之通御広間江筑鰻頭酒差上、山師下田清次郎

『佐渡国略記』下

史料3—22 安永三^{甲午}年（一七七四）

●同（十月）十七日、三町目中使、塩屋町名主、濁川名主・中使、大間町名主・弥十郎町、四十物町名主、上京町中使、各是迄兼帶動来り候所、向後者一町切二町役人相定候由被仰付、併六右衛門町・次助町・諏訪町・間山四町・上相川者は迄之通り

『佐渡国略記』下

史料3—23 安永五^{丙申}年（一七七六）

●同二月朔日、山師嶋川惣治養母死去、是者治助町太右衛門妹

『佐渡国略記』下

史料3—24 天明六^{丙午}年（一七八六）

●（十月）十日、羽田村之内、才の上ニテ畑四町歩新開願、次助町太右衛門被仰付、追而御手当可被仰付よし

『佐渡国略記』下

史料3—25 天明七^{丁未}年（一七八七）

一、相川治助町吉五郎三町目濱町文五郎と云ものとも云合せ灰吹銀拔賣せし事を坂下町九兵衛と云者訴し二付伺之上吉五郎文五郎ハ遠島ニなし九兵衛ハ江戸表より御褒美銀五枚被下

『佐渡年代記』中

史料3—26 天明七^{丁未}年（一七八七）

●十二月廿一日、次助町吉五郎・三町目浜町文五郎兩人、先達而粉成所方灰吹銀拔売致、坂下町九兵衛訴人致、御吟味之上入牢被仰付、今般江戸表方兩人共遠嶋被仰遣、家財闕所被仰付、三町目・次助町兩町共我等組下二付、三丁目へ我等罷越、文五郎家者式丁目小兵衛かしや、家財十一品御符印、町役人江御預ケ、御目付役堀内台助・町同心三国伊平次・我等罷越入、次助町吉五郎闕所、御目付役太田幾次郎・藤井金藏・村田七左衛門罷越入、吉五郎・文五郎兩人遠嶋、宰領御使役吉田弥兵衛・町同心中川小右衛門・藤沢武助、廿七日朝相川出立、上京町嘉伝・北沢茂右衛門兩人相川御構、濁川町与十郎手鎖をも可

被仰付所、永々入牢致居候二付、其儘二而出牢被仰付、坂下町九兵衛儀、訴人御褒美麻上下二而被召出、銀五枚被下候、但江戸右符ノ儘被遣候ヲ、宇都野与助様於番所符を切り、御渡成候

『佐渡国略記』下

史料3—27

天明八_{戊申}年（一七八八）

●（十月）九日、次助町吉五郎、三町目浜文五郎闕所物符印切、御渡被成候

『佐渡国略記』下

史料3—28

寛政二_{戊戌}年（一七九〇）

●端米代、取集有之分を以、火消道具之内竜吐水ヲ拵、町中出火之節相用ひ候ハハ可宜候間、大坂江申遣候而調候方可然哉、評儀可致旨、宇都野与助様被仰聞候二付、相川町役人之内用立候もの拾人計呼出し可申候間、御直被仰付可然由申上、則町役人之内次助町太右衛門・下戸町惣兵衛・羽田町伊左衛門・材木町助左衛門・塩や町友右衛門・大工町新兵衛・下京町嘉十郎、中使ハ四町目庄次郎・小六町長右衛門・みそや町太左衛門、右之もの共江端米代之内ハ竜吐水壺挺調置候而宜候哉之旨、与助様御尋被遊候処、町役人共申上候者、端米代者町々小前之者迄割返シ候義ニ御座候、端米代ヲ以、火消道具又者小間割等ニ御指向被成候而者、小前之もの難義之筋ニ御座候、勿論直宅者無御座、火方小間割等者家持之ものへ相掛り候義ニて、小前之もの構無之候間、何分

二而端米代者其儘御割渡被下候様奉願候由申之候

『佐渡国略記』下

史料3—29

寛政二_{戊戌}年（一七九〇）

●端米代割返二付、町々割合帳面差出候二付、与助様へ差上候処、於町会所、小頭衆立合相渡候節、小前之もの家内人数之内壺人ツツ呼出し相渡候而可然由被仰付候、十七日ハ廿一日迄日数五日ニ割合、下組三日、上組二日ニ相渡、小前請取印形取、割合左之通

去酉五月ハ十二月迄閏月共九ヶ月分

一、錢百三拾壺貫弍百五拾四文 端米代

（貼紙）

「五月ハ十二月迄閏共九ヶ月分 七拾四石六斗九升三合七勺

一、米七拾壺石 正月払之分

内拾壺石弍斗五升之内五斗、この五斗名主弍斗五

升惣壺ケ月二付壺石弍斗五升ツツ引ル

残五拾九石七斗五升

此永代百三拾四貫九百五拾四文

内弍貫七百文五月ハ十二月迄

御門小遣三百文ツツ引ル

壺貫文十一十二權七小遣ひ引ル

残百三十壺貫弍百五拾四文

但壺升二付拾六文八分六厘九毛

但町々端米月々増減壺丁前 高下之積りを以割之

内割方

（中略）

百四拾人 壺人七文四分

壺貫八拾壺文

（中略）

×三拾四口

『佐渡国略記』下

史料3—30

寛政四_{壬午}年（一七九二）

●（八月）廿二日、次助町吉五郎本途買石被仰付候二付、家屋敷質地ニ差上候二付、見分御目付役山田七右衛門・小頭横田仲右衛門・我等罷越ス、屋敷表口四間半・後江拾三間、内立家三間・四間半、代錢三拾五貫文、質物証文仲間連印上ル

『佐渡年代記』下

史料3—31

寛政六_{甲寅}年（一七九四）

●八月三日夜、青盤立場守まつヲ、同人夫江戸水替吉助切害ス、四日検使として奥御給人御目付役山田七右衛門・町同心吉村和多理・山本義平次罷越、是ハ右まつ夫吉助兼而暇遣シ、依之山鍛冶次助町百松と云もの馴合候由二而、御吟味中吉助・百松入牢被仰付、百松兄金助慎被仰付候、まつ儀ハ療治を加候積り、同廿三日まつ快氣仕候二付、同人伯母濁川町ふく江御預ケ、外まつ娘式人有之、是以同斷、九月廿五日右一件拘り候者一同被召出、夫々御仕置被仰付候

江戸水替吉助非人手下、立場守まつ三十六水金町

江御渡、山鍛冶百松追込水替、江戸水替山内住居
藤五郎婦小や、藤五郎妻よし山内御構、江戸水替
差配人半七・伴助・定七、小尾頭久米助・常次・
三五郎・源七・安次、八人手鎖、山師大坂惣左衛
門・味方幾次郎御叱、敷役人同断

『佐渡国略記』下

史料3—32

寛政七^{乙卯}年（一七九五）

●（十二月）七日、（中略）先達而入牢被仰付候上
京町さつ非人手下二成、十二年以前相川弘之後相川
へ出初而次助町二店かり致、町宗門二附候二付今度
次助町名主御糺之上過料三貫文、中使専蔵急度御叱
（後略）

『佐渡国略記』下

史料3—33

寛政八^{丙辰}年（一七九六）

●三月十二日、今朝、次助町りつと申もの雪隠二、
江戸水替老人相果居候段町役人相届、検使出役有
之、御給人武田嘉藤太・御目付堀口市太夫・水替掛
り久保十兵衛・町同心藤井金蔵・山本幸八、水替名
喜十、年三十五、御吟味之上相手弥六入牢、十九日
牢内二而死罪

『佐渡年代記』下

史料3—34

文化五^{戊辰}年（一八〇八）

●此度為御備向御入用下ラ五ツ、所持之寺院相糺候
様被仰出候二付、南沢中使清八を以承合候処、下寺

町法界寺・本典寺・定善寺・昌安寺・大安寺、^ハ五ヶ
寺方可差上旨申出ル

（中略）

一、御役所方右注進之場所江人数差出候節、入用之
人足凡八百四拾人余、国仲村々方為差出候積り二候
得共、若間二合兼候儀も可有之哉二付、其節之た
め半減之積りを以、凡四百人程鐘を承り次第町々方
昼夜二限らず早速御役所江為駄付、御役所御普請所
前江相詰候積り、兼而可申合置候、尤右差引のため
町役人之内式拾人程罷出、何町々方人数何人宛相詰
候段町方番所江可相届候、右人数遣方之義者、目付
役方可及差図候、右者全ク国仲筋方出候人足駄付之
程難計、火急二至り差支候而者不相成候二付申渡候
条、行届候様可致候、尤国仲筋人足出候二随ひ相川
人足ハ相返候積、并手当等之義者跡二而出精之厚薄
二寄急度可及沙汰候

右之条々一同申合、兼而手配致置候様、町年寄并町
役人江急度可申渡置候

辰正月

右人足四百人割付方ハ、去卯年町々宗門男人数
三千八百拾六人二割、左之通手配り致置
一、高四百人

内訳

拾四人羽田町、式人門前、二拾四人老町目、拾六人
式町目、式拾老人三町目、式拾老人四町目・市町、
六人五郎左衛門町、五十一人下戸町、五人馬町、八
人塩屋町、拾七人石扣町・小六町、式拾老人材木町・

板町、拾五人濁川町・紙屋町、拾三人大間町、式拾
老人柴町、三人水金町、拾八人坂下町・外三町、拾
式人味噌屋町・外二町、五人下京町・外二町、拾
四人米屋町、式拾人四十物町・弥十郎町・友白町、
八人上・中京町、拾式人左門町・新五郎町・外二
町、九人南沢、拾四人大工町、拾人次助町・諏訪町、
十五人庄右衛門町外四町、五人上相川、^ハ

（中略）

一、非常為御備竹鍵百五拾本市中二而仕立、人足
百五拾人手配り致置、万一異国船渡来之節ハ浜手三
御番所江五拾人ツツ為相詰候様被仰付、右人足割付
方左之通り

六人濁川町・かみや町、五人大間町、八人柴町、壹
人水金町、七人坂下町・外三町、四人味噌や町・外
二町、式人下京町・外二町、五人米屋町、七人四十
物町・弥十郎町、三人上・中京町、式人上相川、^ハ
五拾人海府御番所詰

五人羽田町、老人門前、九人老町目、六人式町目、
三人塩屋町、六人石扣町・小六町、八人材木町・板
町、四人新五郎町・左門町、三人南沢、五人大工町、
^ハ五拾人材木町御番所詰、八人三町目、式人五郎左
衛門町、八人四町目・市町、式拾人下戸町・同炭屋
町、式人馬町、四人諏訪町・次助町、六人間山五ヶ
町、^ハ五拾人下戸御番所詰

『佐渡国略記』下

（重複のため庄右衛門町・諏訪町の項には当記事不掲載）

史料3—35

文化七^庚年（一八一〇）

●同（正月）十四日、市中之内極貧窮二而当日之暮方茂致兼候者何程有之哉、取調へ名前書可差出旨、飯田清七郎殿御尋二付、左之通り書上ル

門前町ふよ家内式人・新五郎町独身者長悦・同所くま・同所利八貸や良心家内三人・六右衛門町弥五兵衛貸屋茂吉家内式人・次助町吉太郎家内三人・柴町徳兵衛貸屋新念家内三人・材木町喜兵衛貸屋きわ家内三人・三町目新浜町小兵衛貸屋藤吉宿借独身者妙心、^ノ九竈、此人数拾九人
右者多分眼病人亦者老衰二而及貧窮、暮方至而艱難二付、御奉行御手切二而、為御救乞人錢五百文宛、都合九貫五百文被下置候、右銘々於町方御番所飯田清七郎殿被仰渡有之

『佐渡国略記』下

史料3—36

文化十一^甲年（一八一四）

●（八月）十七日、諏訪町・次助町両町中使之義、次助町磯右衛門二十五歳、両町小前一同連印二而願出、則被仰付候

『佐渡国略記』下

史料3—37

文化十三^丙年（一八一六）

●（九月）廿九日、粉一件二付大工町利左衛門・次助町角藏・材木町市左衛門、三人共町預ケ、庄右衛門町銀次山預ケ

史料3—38

文化十四^丁年（一八一七）

『佐渡国略記』下

●（正月）十二日、下寺町円徳寺住持、粉米一件寄会宿致二付逼塞被仰付罷在候処御免、諏訪町石松・米屋町喜兵衛・大工町清次郎・次助町角藏、右一件二付銀山敷内追込之処御免

『佐渡国略記』下

史料3—39

文化十五^戊年（文政元年）（一八一八）

●（正月二十五日）次助町・諏訪町中使磯右衛門儀、昨廿四日病死之旨届出候二付、当分兼帶大工町中使平兵衛へ申付ル

『佐渡国略記』下

史料3—40

文政二^己年（一八一九）

●同日（閏四月十二日）、諏訪町・次助町中使磯右衛門、去寅正月病死いたし候二付、跡中使之儀、次助町嘉左衛門と申者実体成もの二付、右之者江為相勤度、町内印形取揃候処、諏訪町庄八・庄右衛門・吉兵衛・市三郎、右四人之者共不承知之趣二而調印不致、如何取計可申趣名主立右衛門申出二付、右四人之もの共呼出、小頭立会之上一通り相糺候処、何れも勝手筋而已申募調印不致、依之左之書面相添、当月二日井口吉左衛門殿江差出候処、公事方江御廻シ二相成、右四人之者共御糺有之処、心得違之段恐入候趣二而調印致度旨願下ケ、差出書面当日御下ケ

二相成、役目願調印いたし差出二付、例之通奥書いたし、御月番へ上候処、即刻町方御番所二において御目付役山下仁兵衛立会、飯田清七郎殿被申渡

相川通々之内、小町之分者町別役目相立置候而ハ相勤候もの人はまり薄く、其上少分二而も町入用相掛り候儀二付、二十四年以前辰年組合町二被仰付、諏訪町・次助町之儀茂小町二付組合二相成、是迄名主諏訪町、中使者次助町二有之候処、去寅年中使磯右衛門病死仕候二付、跡中使之儀引続次助町嘉左衛門と申者取極、小前印形相調候処、諏訪町庄八・庄右衛門・吉兵衛・市三郎右四人之もの共儀者次助町二役目相立候儀不相望趣二而印形不仕、然とも多人数印形取揃候儀、如何取計可申哉之旨、私共迄申出候二付、右四人之者共呼出相糺候処、町内二相勤候身分之者茂有之候間、可相成者町内二而相定申度旨申し候二付、諏訪町二者名主罷在候故、町用差支之筋も有之間敷、次助町者片寄候場所二而役目之者老人無之候而者用弁不宜、殊二多人数印形も相揃候儀二付多分二随ひ候方可然段、達々利害申聞候得共、何れも勝手筋而已申募相調不申、左候迎嘉左衛門差除キ他之者江為取極候而も右体申崩候者出来可仕、當時之趣二而者役目相定候期無之様奉存候、且近来町方風儀悪敷相成、町役人明跡役目取候節、多分町評相決候儀を纔五七人故障申立、不熟二相成差止候義儘有之、往々者役目之もの方申談候儀不取用、御取締茂不宜様相成可申候間、以来ハ五拾人之内四拾

人余も印形相揃、四五人程之落印有之候とも多分を以被仰付被下候様、此段御賢慮奉願候、尤此末外町々之響二も相成候儀ニ御座候間、諏訪町四人之者とも被御召出御糺之上、急度被仰付御座候様仕度奉存候、依之申上候、以上

卯閏四月

町年寄

〔佐渡国略記〕下

(重複のため諏訪町の項には当記事不掲載)

史料3—41

文政三^{庚辰}年(一八二〇)

●同日(五月十三日)、かなこ次助町金兵衛・同並庄右衛門町宇右衛門、右兩人とも手鎖山預ケ、かなこ米屋町佐助御叱、右御奉行被仰渡

〔佐渡国略記〕下

史料3—42

文政五^{壬午}年(一八二二)

●(正月)廿四日、大坂市ノ川五町目浜平蔵・同人妻つる、右兩人去巳八月出雲屋庄右衛門方へ落着、神社仏閣参詣ニ罷越、其後次助町為助方へ宿立替之上、当三月迄月延被仰付罷在候処、つる儀当日病死いたし候段、次助町為助并町役人加印、届書差出ス

〔佐渡国略記〕下

史料3—43

文政五^{壬午}年(一八二二)

●元上京町定四郎貸屋清八出奔いたし候旨、元同人妻当時次助町九十郎宿借あさ・親類南沢甚右衛門、

上京町・次助町右町役人連印訴書差出候処、甚右衛門・上京町町役人江三十日尋被仰付

〔佐渡国略記〕下

史料3—44

文政五^{壬午}年(一八二二)

●十一月朔日、市中之内、孝心寄特もの拾六人被召出、左之通夫々御褒美被下之

(中略)

同 沓貫五百文ツツ

羽田町久三郎・下戸浜町権

之助・味噌屋町鉄次郎・南

沢弥次兵衛・次助町巳之助

ノ

〔佐渡国略記〕下

史料3—45

文政六^{癸未}年(一八二三)

●(五月)十六日、次助町母登貸家てつ娘儀、去冬方乱心之躰ニ相成、母儀昼夜とも差添罷在候二付、当日暮方行詰り、元より困窮もの故、渴命にも可及躰ニ付、是迄町内之者共少々宛見続遣候得共、最早其儀も行届兼、依之御救之儀町役人并家主方願書差出候処、当日被召出、為御救てつ存命中月々五百文宛被下候旨、河島才右衛門殿被申渡

〔佐渡国略記〕下

史料3—46

文政七^{甲申}年(一八二四)

●(閏八月)十一日、御奉行泉本正助様帶刀坂新道御見分、夫より御宮御普請御見分、右相済、字平通

り関東坂江御懸り、間山口御番所方銀山間歩々々御見廻り、青盤御番所二而御昼支度、雲子越上相川茶屋坂通り諏訪町万行寺脇道へ御懸り、大吹所へ御立寄、次助町方大工町へ御掛、弥十郎町通御帰り有之

〔佐渡国略記〕下

(重複のため諏訪町の項には当記事不掲載)

史料3—47

文政八^{乙酉}年(一八二五)

●(六月)廿二日、次助町独身住つま湿眼相煩、其上時病等二而至而艱難ニ相暮候二付、五人組并町役人共願出候処、御吟味所へ被召出、為御救錢五貫文被下之候旨、御月番千賀多兵衛殿被申渡、受書御取被成

〔佐渡国略記〕下

史料3—48

文政八^{乙酉}年(一八二五)

●(十月)十七日、次助町中使嘉左衛門儀、銀山敷内御普請受方之儀先年右御場所江立入手馴罷在候者二付、此節所々御普請有之下方之者手張候二付、中尾間歩敷内御普請場所へ相頼、敷役人ニ差添人足差配方為致度、町用繰合罷登り候様いたし度旨堀口弥右衛門殿方我等江御談有之候二付、同人呼出、当分之儀二有之間山許方被申遣候節ハ町用くり合罷登り候様可致旨申達ル

〔佐渡国略記〕下

史料3—49

文政八^{乙酉}年（一八二五）

●当月（十二月）廿一日夜、御用炭役所出火之節骨折相勤候人足五郎左衛門町友次郎・三町目浜町榮次郎・材木町儀兵衛・板町吉右衛門・材木町長助・大工町伊平次・小六町条次郎・江戸沢幸次・次助町為助^ノ九人江為御手当鳥目式貫文、羽田町名主久左衛門・中使季兵衛・壹町目中使甚兵衛右三人鳥目七百文、翌廿二日焼失跡片付として昼之内相詰候人足三拾四人江鳥目式貫文、日夜取締として為相詰候人足拾人江鳥目壹貫文、外買上ケ物代九百拾文合六貫六百拾文、右夫々為御手当被下候旨永井四郎兵衛殿より御談し有之二付、銘々呼出申渡受書取置

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—50

文政九^{丙戌}年（一八二六）

●（六月）廿七日、次助町為助・味噌屋町惣助兩人共風聞不宜に付、一国扨二相成

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—51

文政九^{丙戌}年（一八二六）

●（十二月）廿二日、勝場汰物一件落着
大床屋町庄兵衛・次助町長之助・紙屋町乙次郎・米屋町代次郎・中京町留次郎
右五人共銀山追込大工被仰付候
材木町吉太・南沢与四郎・板町留次郎・塩屋町与次兵衛

右四人共手鎖町預ケ、此四人共亥正月廿三日御免

過料三貫文

弥十郎町 季太郎

^ノ

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—52

文政十^{丁亥}年（一八二七）

●（四月）廿五日、次助町長之助・大床屋町庄兵衛・中京町留次郎・米屋町代次郎・紙屋町乙次郎、右五人共去十二月廿一日銀山追込大工二相成候処、当日御役所へ被召出、追込大工御差免、大吹所追込仕事師二被仰付、右御場所へ御引渡相成

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—53

文政十^{丁亥}年（一八二七）

●（閏六月）七日、次助町長之助・大床屋町庄兵衛・紙屋町乙次郎、三人共大吹所追込御免二成ル

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—54

文政十^{丁亥}年（一八二七）

●（十二月）六日、次助町已之助貧窮二付、御救願、町役人・五人組・町代之者願出、当日被召出、米壹俵銭式貫文被下之

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—55

天保五^{甲午}年（一八三四）

●二月三日、次助町為助儀、先達而当国住居不相成旨被仰付、他国出いたし居候処、当日御差免有之

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—56

天保五^{甲午}年（一八三四）

●（三月）廿九日、新五郎町つき・下戸炭屋浜町兼吉・市町兼蔵・諏訪町五郎兵衛・次助町幸次郎、右五人共出奔尋相済候二付帳外、右御奉行被仰渡

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—57

天保七^{丙申}年（一八三六）

●七月四日、次助町たか、先達当国住居不相成旨被仰渡、是迄他国出いたし居候処、御用之儀有之間、早速呼寄候様去月中御沙汰有之、昨三日相帰り、当日町役人召連罷出候処、帰宅被仰付

〔『佐渡国略記』下〕

史料3—58

天保七^{丙申}年（一八三六）

●（七月）八日、次助町地所之内、元藤沢武兵衛外宅人拝領地之場所、御貸地二被仰付被下候様、去月廿九日次助町嘉左衛門願書差出候処、当日被召出願之通被仰付、尤家作等不相成、御入用之節差出候様、御月番永井四郎兵衛殿被申渡、請書御取被成

〔『佐渡国略記』下〕

文献史料4（万照寺）

史料4―1

相川諏訪町字鉛坂

万行寺

当寺京都東本願寺末、開基空乗。元和五末年建立、正保元申年六月二日遷化。第六世円空明和二酉年再建立。全七寅年五月円空上京して飛檐官の職を頂戴して六月廿四日に帰国、是迄當時平僧地にて、安永三年年釣鐘を越後国にて鑄る。境内五畝拾五歩町やしき。

〔佐渡国寺社境内案内帳〕

史料4―2

東

万行寺 境内 十五間十一間 五畝五歩

諏訪町鉛坂

本願寺末。元和五^{己未}年開基空乗正保元^{甲申}年六月十一日寂ス。先年ハ山ノ内一本松ノ向フ証成寺ト言フアリ。又同所ニ当寺末寺ニ安樂寺ト言フアリ。右ニケ寺一ヶ寺トナル。其後共ニ退廃セリ。其本尊今当寺ニ安置シ奉ル所也。当国先奉行鈴木三郎九郎重祐亡父異中院不白笑山ノ位牌天和二十^{戊戌}年七月六日ニ其家来井本十左衛門法名受法石塔各当寺ニアリ。

御堂 五間五間 現住。

〔佐渡相川志〕

史料4―3

一向宗 西五ヶ寺。夫ヨリ下ハ東。

（前略）

一同五畝十五歩 諏訪町 万行寺

（後略）

〔佐渡名勝志〕

史料4―4

一〃（京都東本願寺末）

開基元和五^{己未}年ト本尊書付有之。百廿六年也。

〔佐渡名勝志〕

史料4―5

萬行寺 諏訪町

開基 元和五年

境内 三畝七歩 民有地

財産

當寺開基ノ僧ヲ空乗ト云フ何レノ人ナルヲ知ラス初メ安樂寺証誠寺等ノ末寺アリシモ元禄中皆之ヲ併セ隣町ナリシ淨願寺ヲモ合ス同寺ハ承應中丸橋忠彌ノ事ニ坐シテ配流セラレシ幕吏大岡源三郎父子（共ニ槍術ヲ善クス）ノ皈依寺ニシテ其墓アリ嘉永中其ノ裔孫其力祖先追福ノ爲メ手寫セシ三部經ヲ寄進セシモノ今猶當寺ニ保管セリ。

史料4―6

承応元^{壬午}年（一六五二）

〔相川町誌〕

一流人大岡源右衛門と云者父子鎗術の達人にして今年より門人多く附從ふ源右衛門江戸にて御家人たりしか由井正雪同類丸橋忠彌へ屋敷地を貸置たる科によりて流刑せらると云息男源三郎は承應三年五月十六日春日崎に於て自害し源右衛門は明暦三酉年四月十七日病死し菩提寺治助町淨願寺住持病氣に依て諏訪町万行寺葬りの事を行ふ後源右衛門か二男赦免せられて勤仕を成すと云

〔佐渡年代記〕上

史料4―7

元禄三^{庚午}年（一六九〇）

●午正月八日、用人宮下弥太夫家来六助病死、諏訪町万行寺ニ葬、法名淨春

〔佐渡国略記〕上

史料4―8

元禄三^{庚午}年（一六九〇）

●御奉行手廻り之代官猪飼源兵衛御暇ヲ願、生国江州大津へ罷越、船場小木浜ニ而病死、同所海潮寺ニ葬、猪飼源兵衛、貞享五辰四月十五日卒、来翁宗本、同母同三年寅十月十五日卒、法名宗榮、各諏訪町万行寺過去帳ニ有之

〔佐渡国略記〕上

史料 4—9

寛延三^{庚午}年（一七五〇）

●同十八日、大工町金右衛門父七郎左衛門相果、年六十四、諏訪町万行寺葬、法名宗円、是八延宝二寅年江戸より候流人七郎左衛門悱、母金丸村四郎兵衛娘

『佐渡国略記』上

史料 4—10

明和三^{丙戌}年（一七六六）

●戌三月十五日より廿二日迄、諏訪町万行寺入仏供養

『佐渡国略記』下

史料 4—11

明和七^{庚寅}年（一七七〇）

●寅六月廿四日、諏訪町万行寺帰国、是者此度飛縁^{（マ）}之官職申請ニ上京

『佐渡国略記』下

史料 4—12

明和八^{辛卯}年（一七七二）

●卯四月八日より十五日迄、諏訪町万行寺二而、本山（欠）如上人百年忌相勤

『佐渡国略記』下

史料 4—13

安永三^{甲午}年（一七七四）

●午二月十四日夜、大間町願竜寺了応遷化、年三十九

此寺焼香代々左門町蓮光寺勤来り候所、蓮光寺他国へ罷越留守之内、諏訪町万行寺院代相勤候節、

万行寺へ無届南沢長明寺焼香相勤候二付、同廿六日万行寺其段御広間江訴出候所、何レ共蓮光寺致帰国落着可仕由、双方より書付差上候二付、万行寺より願書御下ケ被成候

『佐渡国略記』下

史料 4—14

安永三^{甲午}年（一七七四）

●同（六月）廿五日、左門町蓮光寺ト大間町願竜寺出入二付、御役所蓮光寺願書差上、七月廿六日二済ム

是ハ竜願寺^{（願竜）}ニ而是迄住寺坊守子共死去致候得ハ蓮光寺より焼香致来り、尤廿一年以前老僧了達死去之節者蓮光寺他国江参、則院代諏訪町万行寺義平僧二付南沢ノ長明寺焼香致、然所当二月現住死去致、此節も蓮光寺他国江参、院代万行寺當時者同官二付焼香可致旨申候得共、願竜寺老僧不承知二付、長明寺二焼香為致候二付、御役所へ万行寺訴出候所、蓮光寺帰国迄長明寺仮焼香致、蓮光寺帰国之上落着可致旨被仰付、然所当月十四日蓮光寺致帰国、焼香之儀申候得共、願竜寺寺旦共不得心二付御役所へ願出候所、相川同宗門中内々ニ而取扱之上、向後者願竜寺死去人蓮光寺・長明寺隔番二焼香可致旨双方得心之上、内済証文指上相済申候

『佐渡国略記』下

史料 4—15

安永三^{甲午}年（一七七四）

●午八月八日より十四日迄、諏訪町万行寺二而釣鐘供養

史料 4—16

安永四^{乙未}年（一七七五）

●同日（九月九日）、諏訪町万行寺後住相川江着、是者越後出雲崎（欠）

『佐渡国略記』下

史料 4—17

安永八^{己亥}年（一七七九）

●同日（三月二十四日）より、鉛坂万行寺二テ、一向宗宝物他国より持参、開帳三日之間

『佐渡国略記』下

史料 4—18

天明二^{壬寅}年（一七八二）

●（四月）廿九日、大和田村弥次兵衛山吹銀壺貫目余持参ニテ、松ヶ崎御番所より他国へ罷出候処、右御番所へ張訴有之ニ付、荷物御改之所右之品有之ニ付、手鎖二而七つ時相川へ召つれ、番所役渡辺十次郎間屋差添御広間江御注進申上候処、右山吹銀は式丁目金右衛門方より買請、則江戸へ金右衛門方より添状有之ニ付、金右衛門方より同心衆被遣候処、山田村屋敷へ罷越候二付、其夜山田村迄同心衆被参候へ共、居合不申由ニ而、菩提所諏訪町万行寺境内墓所之前ニ而自害ス、翌晦日万行寺より御役所へ御注進申上、檢使御目付役藤村小十郎罷越、金右衛門家内御改、御目付役辻弥左衛門家財封印、弥治兵衛者入牢被仰付

『佐渡国略記』下

史料4—19

天明三^{癸卯}年（一七八三）

●九月六日、式町目金右衛門母死去、万行寺葬ル

『佐渡国略記』下

史料4—20

享和元^{辛酉}年（一八一）

●（十二月）廿一日、間山五ヶ町宗門人別二不正之筋有之、先達而方御吟味之上、先中使弥三兵衛義無面之もの附出シ、元名主伊兵衛と申合、無面之もの買米之内ヲ買取候段不埒二付、先達而入牢被仰付、不埒二付在六ヶ所御番所御構之上相川弘被仰付、先名主伊兵衛存命ニ候得は家財闕所追放ニも可被仰付処、死失ニ付忤喜市郎へ過料三貫文、当名主万四郎義近頃名主被仰付候義ニは候得共、宗門請取方等閑、其上先名主取計ひとハ申ながら不束二付押込、当中使増右衛門自分家内ニも無面之もの売人有之、過料壹貫文、右五ヶ町小前之もの四拾三人、無面之もの付出し買米致候段不束二付、仲間へ過料貳拾五貫文、同小前拾六人ハ其家内無面之もの附出、買米ハ先町役人買請候得共、印形ヲ町役人任セニいたし候段不束二付御叱、右無面之内致死失先達而取置候ものへ寺請印形致候寺院貳拾六ヶ寺逼塞、御奉行御直被仰渡候

妙法寺 專照寺 法花寺 玄德寺 法久寺
西光寺 興禪寺 相運寺 瑞仙寺 善行寺
広源寺 大安寺 定善寺 妙輪寺 長命寺
称名寺 間名寺 願竜寺 了円寺 総源寺

法泉寺 大乘寺 大福寺 万行寺 鹿伏観音寺

右式十六ヶ寺戌正月廿日逼塞御免、間山名主万四郎御免、妙輪寺・万行寺は正月十日御免

右一件二付、宗門人別糺方不行届二付、同輩一統

指控伺書差上候処、不及其儀、以来入念候様御出

札相成、依之麻上下二而奥御組頭町方御掛リへ御

礼廻リ

（重複のため妙法寺・法久寺・西光寺・興禪寺の項には不掲載）

『佐渡国略記』下

文献史料5（浄願寺）

史料5—1

浄土真宗 浄願寺 治助町 当寺大岡源三郎菩提

所。承応三^{甲午}年五月十六日没ス。鹿伏

村春日崎ニ葬ル。導師諏訪町万行寺祐

心、其後退転ス。

『佐渡相川志』

史料5—2

明暦三^{丁酉}年（一六五七）

●午五月十六日（十八日歟）、大岡源三郎鹿伏春日崎ニ而横死、法名休紅、是者慶安四卯年故有而江戸方来り相川ニ居住、鐘之達仁ニ而諸役人ニ弟子余多有之、別而牧野甚兵衛殿高弟二而（欠）源三郎治助町浄願寺ニ葬、死骸ハ則春日崎ニ葬トモ云、大岡源

右衛門明暦三酉四月十七日卒、法名宗夢

『佐渡国略記』上

文献史料6（覚性寺）

史料6—1

相川治助町

妙法山 覚性寺

当寺阿仏坊妙宣寺末、開基覚性房日儀、寛永七午年元下山之神に建立。元禄年中に今の地に遷す。此所町屋敷七間に三拾貳間、もと境内壹畝拾貳歩除。

『佐渡国寺社境内案内帳』

史料6—2

妙法山

覚性寺 境内 間廿二間 町屋敷 治助町

阿仏坊村妙宣寺末寺。寛永七^{庚午}年本山十七世日追開

基。延宝三^{乙卯}年十月廿三日化ス。願主覚性院日義初

メ上山之神ニ建立ス。境内六間七間壹畝十三歩除

地。元禄年中今ノ地へ移ス。

本堂 現住日定延享四^卯年入院。

『佐渡相川志』

史料6—3

法華宗

(前略)

一 同一畝十二歩 山神卜在之上寺町 覚性寺

(後略)

『佐渡名勝志』

史料6—4 享保十七_{壬午}年(一七三二)

●同(二月)廿三日、上寺町覚性寺入寺

『佐渡国略記』上

史料6—5 元文四_{乙未}年(一七三九)

●未八月十三日、治助町覚性寺、下寺町蓮長寺へ他山、十一月朔日入院目見江

『佐渡国略記』上

史料6—6 安永十_{庚午}年(天明元年)(一七八一)

●四月朔日方五日迄、上京町覚性寺本堂入仏供養・祖師五百遠忌法事

但江戸方被成候水替一同旦那二付、法事中式三拾人宛毎日参詣御免、水替方作り花其外飾り物寄進有之、賑ひ候二付、見物人多く、参詣も大勢有之

『佐渡国略記』下

史料6—7 天明二_{壬寅}年(一七八二)

●十一月十九日、江戸水替多十、間山川原二而御仕置、死骸者覚性寺申請ル、是者頭権現堂長五郎ヲ切付候処、不届二付如此、長五郎も頭御取上ケ鳥越大

工二被仰付候

辞世 道すから雪折竹の名残かな

と新五郎町ニテ

『佐渡国略記』下

史料6—8 文化七_{庚午}年(一八一〇)

●江戸水替之内中尾御番所・次助町覚性寺へ引分有之、締方二同心中詰合有之、固メ人足中尾へ拾入、覚性寺へ五人町々方入立、尤右固メ内二而飯焚兼合候賃銭ハ追而御沙汰可有之旨被仰渡候

『佐渡国略記』下

史料6—9 文化七_{庚午}年(一八一〇)

一 二月十二日江戸水替三拾五人御役所へ駆込願ひいたすに付利解申聞歸小屋申付候處翌十三日右三十五人の者敷内え相越候途中におゐて前日小屋内に残り候もの共竹鎗又は庖丁等の刃物を以三拾五人の者を追掛ケ四五人に深手爲負薄手負候者も七八人有之夫よりして双方立分れ石打等いたし大に混亂におよひ候に付水替掛り役人の内帯刀を抜放し追散し候處三十五人は上寺町覚性寺へ逃去り小屋内より出候ものは又候小屋場へ引籠り翌十四日迄双方敷詰も不致候に付山方役目付役は勿論壯年健成役人町同心水主山師以下御雇町人共上下三百人程差向け不埒の永替_(水)四拾四人召捕へ十四日夜入牢申付覚性寺へ逃去り候ものは小屋場へ相返す

『佐渡年代記』中

史料6—10

文政四_{辛巳}年(一八二一)

●(七月)十二日、元江戸水替兵次儀、八年以前戌年平人被仰付、嘉左衛門町二住居いたし罷在候処、敷疲二付同所吉三扶助いたし、然処吉三儀者御咎筋被仰付、外二当国ニ身寄之者も無之候間、当分之内江戸水替小屋場江罷越度、快氣之上者相働、飯料等差上可申、被仰付被下候様、町役人加印願書差出候処、右病氣之者小屋場ニ差置候儀不容易義ニ候間、旦那寺覚性寺江なりとも差遣、勝手方世話ニ而も為致候儀者不相成哉之旨相尋候処、此節之病体ニ而者起臥も不自由ニ而歩行相成兼、覚性寺へ引取候而も看病人をも附置候はては食事いたし候事も相成兼候趣別紙差出、然処八月廿四日町役人より申出候者、四五日已前方少々つつ歩行も相成、追々快方二相見へ候間、覚性寺へ相頼引取貰ひ候積り二いたし候間、先達而上置候願書御下ケ被下候様、願下ケ書面差出二付、則願書御下ケニ相成

『佐渡国略記』下

文献史料7 (妙円寺)

史料7—1

相川町南沢

長光山 妙円寺

当寺一ノ谷村妙照寺末、開基久成院日実、田中村の鶴子四十物町に建立。其の後相川次助町、今の妙伝寺境内に移す。享保二酉年八月当時の地へ移す。此の所は味方孫太夫持分の屋鋪にて五拾貳間に拾七間、もと境内三反式畝八歩御除、当寺は妙照寺の触頭にて、享保二十卯年四月本山より永聖免許。
〔佐渡国寺社境内案内帳〕

史料 7—2

長光山

妙 円 寺 境内 五十二間半十七間

町屋敷 南沢

市ノ沢妙照寺末。慶長元^{丙申}年六月廿二日開基。久成院日室鶴子四十物町に建立ス。後子相川治助町へ移ス。建立ノ願主上京町椎野新兵衛寛文^{丁未}年間二月八日卒ス。境内廿二間四十四間三反式畝八歩除地。今ノ敷地ハ寛文八^{戊甲}年山師寺沢七兵衛地ヲ味方孫太夫ニ譲ル。享保元^{丙申}年十月当寺五世善性院日芳求メテ境内ト為ス。翌^酉年八月此地ニ再建セリ。享保十一^午年六月廿四日逝ス。治助町ノ寺地ハ同宗妙伝寺へ譲ル。当寺永代上人享保廿四^{己卯}年四月十一日本寺廿八世日完ヨリ許ス。

本堂 番神堂 現住日良 享保十一^{丙午}年入院。

〔佐渡相川志〕

史料 7—3

長光山 妙圓寺

南澤町字赤土原

開基 慶長元年

本山 市野澤妙照寺

境内 八畝廿七歩 官有地

財産 田三町五段二畝十五歩 畑七畝十七歩

山林一町四段七畝九歩

當寺初メ鶴子ニ開基セシ時本山ヨリ授與セシ山号曼陀羅脇書寫ヲ得タレハ左ニ載ス（本紙ハ罹災今亡シ轉寫誤アレトモ是正スルニ由ナシ）

當山之衆徒久成院日實發一千部讀誦之誓願因俗縁扶助之便於鶴子之邊境結讀經安座之草庵因茲今感勇猛精進之道心並亦任懇望之意趣號長光山妙圓寺仰願者奉勸諸尊實薰加被密借威雲一句一偈増進菩提一色一香永無退轉舍溜足給

慶長第元丙申年六月廿二日

妙法華山第十五世日誘判

其後鶴子ノ衰フルニ及テ相川ニ轉シ次助町字稗畑ニ建テタリシニ享保二年更ニ今ノ地ヲ味方孫太夫ヨリ購（代銀六貫五百目換算金百三十兩）シ移建セリ弘化三年十月廿二日夜火災起リ（放火ト云フ）適住僧不在ナリシカハ堂塔什寶古記等悉ク焼失シタルニ唯土藏ノ焼跡ニ桐箱ニ納メタル祖師直筆ノ曼陀羅ノミ（外箱ハ焦ケタレトモ）無事ナリシカハ是ヨリ不焼ノ曼陀羅ノ名高クナリ當時ノ奉行中島平四郎眞宰聞テ之ヲ異トシ能筆ノ國學家藏田茂樹ヲシテ曼陀羅ヲ模寫セシメシニ茂樹ハ更ニ和文ニテ其由ヲ記シテ之ヲ贈レルモノ今尙存セリ。

〔相川町志〕

文献史料 8（妙伝寺）

史料 8—1

相川上寺町字稗畑

法栄山 妙 伝 寺

当寺大野村根本寺末、開基慶長九辰年日清といふ僧撰州より渡海、上相川岩崎町に菴を建て法花堂と云ふ。能州金栄山妙成寺末にて、寛永六巳年寺地を今の妙法寺の上へ遷す。寺山号を改め根本寺末となる。其後大工町北側の下大坂町へ遷す。享保二酉年今の地へ移す。此所南沢妙円寺もとの境内、反歩三反式畝八歩、大坂町に式反八畝歩、各々御除。

〔佐渡国寺社境内案内帳〕

史料 8—2

法栄山

妙 伝 寺 境内 廿二間四十四間

三反式畝八歩除地

治助町稗畑

大野村根本寺末。慶長九^{甲辰}年撰州ヨリ円清日時ト言ヘル僧来タリ。上相川岩崎町ニ庵ヲ結ビテ後法花寺ト名ケテ能州金栄山妙成寺末寺トナル。寛永六^{己巳}年今ノ妙法寺ノ上ノ台へ建立ス。其後大工町下ニ移ス。今ノ寺地ハ同宗妙円寺ヲ享保二^{丁酉}年南沢へ引キ

其跡へ当寺ヲ移ス。旧境内三十間廿八間式反八畝歩。開基日時正保元^{甲申}年八月七日ニ没ス。第四世日宮元祿十五^{壬午}年ニ上京シテ今本山ノ樂器ヲ調フ。同六世妙要院樂ヲ執行シ本山ニシテ始メテ当国ニ管弦ノ法事ヲ行フ。
 本堂 鬼子母神堂其像ハ久遠成院日觀開眼ス。当寺四世日宮元祿十五^{壬午}年京都ヨリ守り来ル。現住日詠宝曆二^{壬申}年入院。
 『佐渡相川志』

史料8—3

法華宗

(前略)

一 同二反八畝歩

同(上寺町)

妙伝寺

(後略)

『佐渡名勝志』延享元年(一七四四)

史料8—4

元文元^{丙辰}年(一七三五)

●同(三月) 八日^{乙未}十八日迄、上寺町妙伝寺鬼子母神堂建立、入仏供養
 『佐渡国略記』上

史料8—5

寛延三^{庚午}年(一七五〇)

●同(六月) 十八日、町同心片岡利兵衛相果、上寺町妙伝寺葬
 『佐渡国略記』上

史料8—6

宝曆二^{壬申}年(一七五二)

●同(三月) 廿七日、上寺町妙典寺・中寺町瑞仙寺願ニ仍而、本寺大野村根本寺^⑤ヲ隱居申付候、妙伝寺ハ同四月廿九日、五郎右衛門町玉泉寺江他山、同(欠)
 『佐渡国略記』上

史料8—7

宝曆五^{乙亥}年(一七五五)

●同(三月) 十二日^{乙未}十八日迄、上寺町妙伝寺ニ而鬼子母神開帳
 『佐渡国略記』上

史料8—8

宝曆十三^{癸未}年(一七六三)

●同(八月) 十一日、上寺町妙伝寺隱居良運院遷化是者妙伝寺隱居致小木町安立寺寺中ニ罷有、五郎左衛門町玉泉寺江看主致、弟子妙伝寺ニ玉泉寺ヲ渡、又妙伝寺ハ歸、當時妙伝寺住職致候ニ付、良運院妙伝寺ニ罷有遷化
 『佐渡国略記』下

史料8—9

安永二^{癸巳}年(一七七三)

●巳四月十五日^{乙未}廿一日迄、上寺町妙伝寺ニ而鬼子母神開帳・諸尊開眼・祖師五百年忌法事相勤
 『佐渡国略記』下

史料8—10

安永六^{丁酉}年(一七七〇)

●同(三月) 廿九日、大野村根本寺末相川法久寺、

妙伝寺聖人二成

『佐渡国略記』下

文献史料9(法久寺)

史料9—1

相川上寺町字境沢

妙耀山 法久寺

当寺大野村根本寺末、開基日貞、元和八戌年六月上相川岩崎町に建立、此の所今は茶屋平出崎の由、寺号を法円寺と云後法休寺と云ふ。寛永六巳年境沢へ移す。当寺京都妙覺寺末、寛文十一亥年根本寺末になる、此の節法久寺と書改る。先年は円乗院と云寺家有之、貞享元子年十月、元祿十丑年十月両度再建。境内寺反歩御除。
 『佐渡国寺社境内案内帳』

史料9—2

妙耀山

法久寺 境内 十間十三間 一反歩除地

治助町境沢

大野村根本寺末。元和八^{壬戌}年六月開基日貞寛永七^{壬午}年正月十日ニ化ス。願主笠五郎兵衛寛永十二^{癸亥}年十月三日卒ス。同諸具、施主徳平五兵衛寛文二^{壬午}年二月七日卒ス。貞享元祿ノ間ニ本堂方丈再建ノ願主佐

藤治右衛門正秀也。一説二先寺号法円寺ト言フ。元和八年開基日貞上京シテ妙覺寺ヨリ寺号ヲ申請ケ未寺トナリ。其後寛文年中寺号ヲ法久寺ト改メ根本寺未派トナル由。

本堂 番神堂ノ像山師何某当寺ヘ寄附ス。現住日建延享四^卯年入院。

〔佐渡相川志〕

史料 9—3

法華宗

(前略)

- 一 同一反歩 同(上寺町) 法久寺
(後略)

〔佐渡名勝志〕

史料 9—4

妙耀山 法久寺 上寺町境澤

開基 元和八年

本山 大野根本寺

境内 一段歩 民有地

財産 田一町二段三畝廿歩 畑一段七畝廿六歩

山林一段九畝二十歩

當寺初法圓寺ト号シ上相川岩崎町二建チ寛永六年今ノ地ニ移リテ法体寺ト改号セシニ寛文九年又今号ニ更メント云フ本宗モ初京都妙覺寺ナリシヲ寛文中不受不施派ノ禁令嚴ナリシヨリ根本寺ノ監督ニ皈シテヨリ其ノ末寺トナレリ當寺亦明治初年ノ廢興アリキ

而シテ今ハ堂宇朽壞シタルヲ以テ同末妙輪寺ト合併セント兩檀家ノ協議ハ調ヘルモ本山之ヲ妨ケ實行スルニ至ラスト云フ。

〔相川町誌〕

史料 9—5

寛文六^{丙午}年(一六六六)

一日蓮宗不受不施之法稱御制禁の旨仰出さる依之寛文九酉年六月に至り京都妙覺寺より末寺改に來る佐州にて上相川法華寺下寺町蓮長寺上寺町法久寺下寺町妙輪寺大野村根本寺松ヶ崎村本行寺各妙覺寺の末寺たり河原田妙經寺も末寺の由申すといへとも不明なるにより江戸へ出て寺社奉行所において吟味ありしか妙經寺申す所相違ありといへとも無本寺は制禁たるにより市野澤村妙照寺同門となりし所後に至て本末の出入起り延寶六年に決す

〔佐渡年代記〕上

史料 9—6

享保七^{壬寅}年(一七二二)

●同八月廿八日、上寺町法久寺入院目見

〔佐渡国略記〕上

史料 9—7

享保八^{癸卯}年(一七二三)

●同(七月)廿六日夜、庄右衛門町嘉左衛門二代伊右衛門年式拾三、諏訪町忠右衛門女房はつ年三十一、上寺町法久寺山ニ而心中致相果申候

〔佐渡国略記〕上

史料 9—8

享保十七^{壬子}年(一七三二)

●同(四月)七日と十八日迄、上寺町法久寺番神堂建立供養法事有之

〔佐渡国略記〕上

史料 9—9

元文二^{丁巳}年(一七三七)

●同年、上寺町法久寺御許立

〔佐渡国略記〕上

史料 9—10

延享四^{丁卯}年(一七四一)

●同(四月)廿三日、上寺町法久寺頓死

〔佐渡国略記〕上

史料 9—11

寛延四^{辛未}年(一七五一)

●未六月十六日、吟味方役岩崎朝右衛門父自足相果、年七十、上京町法久寺二葬、法号本覺自足日養

〔佐渡国略記〕上

史料 9—12

宝曆四^{甲戌}年(一七五四)

●同(十二月)十八日、上寺町法久寺・羽田村百姓山論、翌年之春、双方和段内々ニ而相済

〔佐渡国略記〕上

史料 9—13

宝曆十三^{癸未}年(一七六三)

●未九月朔日、潟上村浄堅寺・相川下寺町法久寺入寺目見江

『佐渡国略記』下

史料 9 | 14 明和九_{壬辰}年(安永元年)(一七七二)

●同(五月) 廿四日_{乙未}廿八日、上相川法久寺二而番神堂供養、廿八日夜遷宮并開山五十年忌法事相勸

『佐渡国略記』下

史料 9 | 15 安永二_{癸巳}年(一七七三)

●同(六月) 七日九ツ時、上寺町法久寺畑ヲ焼候ヲ火事と申、町々方人足相詰、依之向後者畑ヲ焼候節者先達而役所江相届候様被仰付

『佐渡国略記』下

史料 9 | 16 安永五_{丙申}年(一七七六)

●同(五月) 十二日夜、岩崎新左衛門小六町遠藤藤九郎方二而病氣二付、宅江つれ帰り明方死去、年四十一、上寺町法久寺二葬、法名法感院酒徳日浄卜号、是者後藤長谷川清右衛門次男、岩崎江名跡二差越

『佐渡国略記』下

史料 9 | 17 安永五_{丙申}年(一七七六)

●同(七月) 廿四日_{乙未}廿八日迄、上寺町法久寺二而祖師一代之絵像開眼、是者当寺旦縁之者左門町大和市左衛門倅江戸表二罷有、此者方右御絵ヲ親類三町目孫次右衛門方へ差越、右親類共表具ヲ仕立法久寺江納

『佐渡国略記』下

史料 9 | 18 安永六_{丁酉}年(一七七七)

●同(三月) 廿九日、大野村根本寺末相川法久寺、妙伝寺聖人二成

『佐渡国略記』下

史料 9 | 19 安永六_{丁酉}年(一七七七)

●西年作事

(前略)

一、境沢法久寺庫裏作事

(後略)

『佐渡国略記』下

史料 9 | 20 安永七_{戊戌}年(一七七八)

●同日(九月二十二日)、上寺町法久寺隠居他国方帰ル

『佐渡国略記』下

史料 9 | 21 安永八_{己亥}年(一七七九)

●(四月) 十一日_{乙未}十五日迄、上寺町法久寺二テ祖師五百遠忌法事

『佐渡国略記』下

文献史料10(妙法寺)

史料 10 | 1

妙宣寺末寺

相川上寺町樋道

一乗山 妙法寺

当寺阿仏坊村妙宣寺末、開基惠照院日遊、寛永元子年建立。宝永四亥年再建立、当寺阿仏坊触頭にして正徳四年正月二日本山より永聖免許。境内式反六畝廿歩御除。

『佐渡国寺社境内案内帳』

史料 10 | 2

一乗山

妙法寺 境内 三十二間廿五間

式反六畝廿歩御除地

治助町樋道

阿仏坊村妙宣寺末。頭寛永元_{甲子}年水勺町法花寺惠性院日遊開基。第五世瑞光院日遊宝永四_{丁亥}年再建也。当寺代々聖号正徳四_{甲午}年正月二日本山廿三世日宥ヨリ免許。

本堂 現住日栄 宝暦元_{辛未}年八月望二入院。

『佐渡相川志』

史料10—3

法華宗

(前略)

一 同二反六畝廿歩

同(上寺町)

妙法寺

(後略)

『佐渡名勝志』

史料10—4

享保二十^乙年(一七三五)

●卯三月十一日^乙十八日迄、上寺町妙法寺二而、法花經一千部成就法事

『佐渡国略記』上

史料10—5

享保二十一^{丙辰}年(元文元年)(一七三六)

●同(三月)廿四日^乙晦日迄、上寺町妙法寺二而、本山阿仏之靈宝毎日三幅宛掛ル

『佐渡国略記』上

史料10—6

元文二^{丁巳}年(一七三七)

●同(二月)十二日、初午年賀、山方役小田切覚之進、同今井金兵衛、小木番所役蔵田彦右衛門、御金蔵銀見窪田又右衛門、上寺町妙法寺、下寺町妙福寺、濁川酒屋市太夫、小六町遠藤九左衛門、小六町名主治郎兵衛、同中使半左衛門、材木町中使市左衛門

『佐渡国略記』上

史料10—7

元文二^{丁巳}年(一七三七)

●同(八月)十六日^乙廿二日迄、上寺町妙法寺二而四天王開眼供養、是者式丁め番匠重治郎刻候

『佐渡国略記』上

史料10—8

元文三^{戊午}年(一七三八)

●同六月十二日、下戸木屋奎平方二而、奥州^乙来り候千ヶ寺參詣病死、上寺町妙法寺葬

『佐渡国略記』上

史料10—9

寛保元^{辛酉}年(一七四一)

●西八月廿一日^乙廿五日迄、上寺町妙法寺二テ四天王并行学院日朝上人像開眼供養

『佐渡国略記』上

史料10—10

寛延四^{辛未}年(一七五一)

●未八月十五日、上寺町妙法寺・寺町本敬寺、各入院之目見江

『佐渡国略記』上

史料10—11

宝曆十一^{辛巳}年(一七六一)

●同日(十月廿五日)、上寺町妙法寺二而祖師堂再建立入仏

『佐渡国略記』下

史料10—12

宝曆十二^{壬午}年(一七六二)

●同(四月)廿二日^乙廿五日迄、上寺町妙法寺二而去年建立致候堂江日朝上人形像入仏法事

『佐渡国略記』下

史料10—13

安永二^{癸巳}年(一七七三)

●同(二月)十一日、初午、大沢善行寺老僧八十八、其外年賀、米藏定役山中八郎左衛門・地方懸岩間奎右衛門・富山屋悻政四郎・井口文平・後藤高田十蔵・銀掛野口五左衛門・掛屋文右衛門・弥十郎町大願寺・上寺町妙法寺・下戸町かかや六右衛門・下戸町奥州屋茂平治・同所大津屋熊次郎・同所魚屋八兵衛・町同心出川官助

『佐渡国略記』下

史料10—14

安永七^{戊戌}年(一七七八)

●同(四月)廿二日^乙廿八日迄、上寺町妙法寺二テ祖師五百遠忌法事相勤、当年御拝立

『佐渡国略記』下

史料10—15

天明元^{辛丑}年(一七八一)

●八月十六日、御藏定役内田郡右衛門死去、上寺町妙法寺葬

『佐渡国略記』下

史料10 | 16

安政三^{丙辰}年（一八五六）

一、同様九ツ半時上寺町妙法寺焼失。日潮尊像は麥なく、利四郎並小屋場源次郎、理次郎三人にて出す。住僧焼失いたす。

『浮世囃』

文献史料11（興禪寺）

史料11 | 1

相川治助町桐ノ木沢

大慈山 興 禪 寺

当寺京都東福寺末、開基海雲慶呑西堂大和尚、信州の産、慶長十九寅年建立、慶安元^{（本に「月二十七日」）}子年四月廿一日遷化。境内三反八畝拾歩御除、同末慈徳寺正保三戌年退転、境内元禄七戌年御高入に相成、中畑彦反三畝廿六歩興禪寺へ被下。当寺観音絵像晁殿司作、涅槃像は大幅にして本山より来る、寺号の額は朝鮮人の筆、本尊正観音薬師は春日の作。当寺建立の時右諸尊、仏具、方丈の雑具、一式本山より来る。

『佐渡国寺社境内案内帳』

史料11 | 2

大慈山

興 禪 寺 境内 五十五間四十六間

三反八畝十歩除地

桐ノ木沢

京東福寺末寺。慶長十六^{辛亥}年開闢ス。海雲呑慶信州ノ産。慶安元^{（本に「月二十七日」）}子年四月廿一日二物故。寛永二^{乙丑}年九月廿七日下午寺町円徳寺ヨリ出火。当寺本堂北ノ軒へ火燃工付キシカ共多勢ニテ防キ速ニ消ス。同末境沢慈徳寺正保三^{丙戌}年退転ス。境内十六間二廿六間。元禄七^{甲戌}年検地ノ時中畑彦反三畝廿六歩当寺へ被下。本堂 七間半十一間半 本尊聖観音、運慶ノ作。観音画像一幅兆典司ノ筆。是ハ東福寺ヨリ出ツ。薬師堂本尊春日ノ作。元禄年中建立願主庄右衛門町久左衛門。現住東福寺ヨリ来ル。

『佐渡相川志』

史料11 | 3

禪 宗

（前略）

一 境内三反八畝十歩

上寺町

興禪寺

（後略）

『佐渡名勝志』

史料11 | 4

一 京都東福寺末寺

相府桐木沢

興禪寺

元禄記二、上寺町次助町トアリ。

一 境内三反八畝十歩

同 寺

一 畑一反三畝廿六歩

同 寺持

是レハ禪宗慈徳寺ト申寺跡ニ候処ニ、五十年前致

類破候二付、只今八畑二仕、興禪寺致支配候、然レトモ町役・地子除来ルト云々。

元禄記二曰、開基慶長十六^{辛亥}年ト過去帳ニ有レ之、從レ夫元禄七^{甲戌}年ニ至マテ八十四年、境内從レ先矩^一地子・町役除ク、但シ無^二旧証ト云々。隆考ルニ、寛保四ニ至テ百廿四年也。

『佐渡名勝志』延享元年（一七四四）

史料11 | 5

大慈山 興禪寺

次助町字桐ノ木澤

本尊 正観音

開基 慶長十六年

本尊^寺 京都東福寺

境内 五畝五歩 官有地

財産

當寺開基僧慶呑ハ信州ノ人ニシテ東福寺ニ學フ當寺創立ノ際本尊以下本堂方丈所要ノ什器一式ハ皆本山ヨリ送致セル所ナリト云フ有名ノ観音及涅槃ノ二畫幅モ亦其内ナリシナラン（或ハ三世千溪ノ東福寺ヨリ齋ラス所ナリトモ云フ）正保三年同宗ナル慈徳寺ヲ併ス初世ヨリ三世千溪マテハ皆學徳アリ且長命セシト傳フ當寺ハ元田畑ヲ多ク有セシニ檀家減少シ其ノ管理完カラサリシタメ奸徒ニ騙取セラレテ悉ク之ヲ失ヒ今ハ寺基モ癡額セントシツゝアリ。

『相川町誌』

史料11―6 寛永二_{乙丑}年（一六二五）

●丑九月廿七日、下寺町円徳寺ヨリ出火、大工町庄右衛門町桐木沢源昌寺二而焼泊ル、同興禅寺本堂北側ノ軒下迄やけ候跡今二有之、尤寺町法界寺残候由

史料11―7 享保十二_{丁未}年（一七二七）

●同（二月）十四日、禅宗桐木沢興禅寺乱心二相成候

史料11―8 享保十六_{辛亥}年（一七三一）

●同三月四日_乙十日迄、桐木沢興源寺観音開帳有之

史料11―9 寛保二_{壬戌}年（一七四二）

●戌十一月廿五日、在方役西村徳右衛門急死、年四十八、桐沢興禅寺二葬ル、知勝院仁男義翁卜号、十二月六日御役家明、十日普請所へ引渡

史料11―10 寛延二_{己巳}年（一七四九）

●巳七月廿五日、普請所定役太田九左衛門相果、禅宗桐沢興禅寺旦那、年四十

史料11―11 宝暦七_{丁丑}年（一七五七）

●同（七月）七日、川原田本間近江官職成目見江、米屋町願泉寺桐沢興禅寺入寺目見江

史料11―12 宝暦八_{戌寅}年（一七五八）

●同（三月）八日_乙十五日迄、桐沢興禅寺二而薬師開帳

史料11―13 明和元_{甲申}年（一七六四）

●同（三月）廿五日_乙四月朔日迄、桐沢興禅寺二而観音開張

文献史料12（慈徳寺）

史料12―1 禅宗 慈徳寺

境内十六間廿六間東福寺末。正保三_{丙戌}年破壊ス。寺地八同末、桐ノ木沢興禅寺支配ス。

文献史料13（源昌寺）

史料13―1 相川庄右衛門町桐木沢

当寺京都智恩院末、開基慶長十二末年敬普通道建立。同十九寅年六月廿六日遷化。往古は寺号法輪寺とも云由、仏具に書き付けあり。境内四畝廿三步御除。

史料13―2 日光山

源昌寺 境内 十一間十三間

四畝廿三步除地

京都知恩院末。慶長十二_{丁未}年開基。敬普通道同十九_{甲子}年六月廿六日二化ス。

史料13―3 浄土宗

（前略）

一 同四畝廿三步 上寺町 源昌寺

（後略）

史料13—4

寛永二^{乙丑}年（一六二五）

『佐渡名勝志』

●丑九月廿七日、下寺町円徳寺ヨリ出火、大工町庄右衛門町桐木沢源昌寺ニ而焼泊ル、同興禪寺本堂北側ノ軒下迄やけ候跡今ニ有之、尤寺町法界寺残候由

『佐渡国略記』上

文献史料14（西光寺）

史料14—1

相川治助町

高明山 西光寺

当寺京都智恩院末、開基松蒼林閑、元和元年建立。同五月十二日遷化。当寺天神の尊像は沢根村地頭本間撰津守永州京都東福寺より勧請。天正年中上杉家に隨身羽州米沢へ引越しの節尊像は当寺へ納む。境内三反九畝八歩御除。

『佐渡国寺社境内案内帳』

史料14—2

高明山

西光寺 境内 廿三間五十四間

三反九畝十八歩

京知恩院末。元和元^{乙卯}年開基。松蒼林閑同年五月

十二日化ス。当寺ニ天神ノ像アリ。昔沢根村ノ地頭本間撰津守永州上京ノ日京東福寺ヨリ申請来リテ居城沢根白山ノ鎮守トス。天正年中上杉景勝ニ随フ時此天神ノ像ヲハ当寺ニ納ム。

『佐渡相川志』

史料14—3

浄土宗

（前略）

一 同三反九畝十八歩

上寺町

西光寺

（後略）

『佐渡名勝志』

史料14—4

●沢根古城 白山城ト云撰津守初ノ住居舟代村ニテ白山之城者出丸其後当城江移天正之一乱ニハ今專得寺上之台ニ上杉之陣屋ヲ立上杉勢帰陣之節代官須賀修理陣屋ヲ立撰州者上杉家ニ隨身越後江渡リ是ヨリ修理白山之城江移ル文祿歳中此所ニテ卒則專得寺ニ葬其ヨリ掃地ニ成舗地田畑開発今沢根町金子屋伊右門所持白山城鎮守天神撰津守上京シテ京師東福寺ヨリ勧請此尊像今相川西光寺ニ移沢根町者慶長四亥歳町割則町奉行田中清右衛門寛永十酉八月廿二日卒

〔佐渡古史略記〕『佐渡国略記』上

史料14—5

元禄十四^{辛巳}年（一七〇一）

●同二月、腰細村浦目付杉田甚五右衛門不調法二付

同六月廿九日夜手鎖御打親類ニ御預ケ、八月九日二代善十郎父子共牢者、宝永三戌六月朔日牢内ニ而死、上寺町西光寺ニ葬、善十郎正徳三巳五月出牢

『佐渡国略記』上

史料14—6

享保十^{乙巳}年（一七二五）

●同三月二日ハ廿二日迄、浄土宗上寺町西光寺にて天神開帳有之

『佐渡国略記』上

史料14—7

享保十^{乙巳}年（一七二五）

一、三月二日より廿二日に到る、上京町西光寺に於て、天神開帳、是は沢根城主本間撰津守の鎮守也。

『撮要佐渡年代記』

史料14—8

元文三^{戊戌}年（一七三八）

●午三月八日ハ一七日、五郎左衛門町来迎寺弟子宗善、於中興村十王堂、六部之供養致候二付、出家ヲ頼、浄土三部妙典ヲ一千部申候得共、智恩院直末之外難成由、触頭法界寺ヲ申渡、其上為検僧と上寺町西光寺、下相川村靈山寺ヲ十王堂へ差越

『佐渡国略記』上

史料14—9

宝暦四^{甲戌}年（一七五四）

●戌八月十三日、上寺町西光寺遷化、年五十七

『佐渡国略記』上

文献史料15（教福寺）

史料15 | 1

相川廃退ノ寺院或ハ両寺ヲ一寺ト為シ当時寺号相続モアリ。

（中略）

- 宗旨不明 敬音寺 鍛冶町
 - 宗旨不明 願泉町 鍛冶町
 - 宗旨不明 證誠寺 九郎左衛門町
 - 宗旨不明 光源寺 本町
 - 宗旨不明 長樂寺 小右衛門町
 - 宗旨不明 教福寺 諏訪町
- （後略）

『佐渡相川志』